

官報號外 昭和十三年三月二十三日

○第七十三回 衆議院議事速記録第二十二號

昭和十三年三月二十二日(火曜日)

午後一時十六分開議

第三 商法中改正法律施行法案(政府提出、貴族院送付)

議事日程 第三十一號

昭和十三年三月二十二日

午後一時開議

質問

一 青年學校義務制度實施ニ關スル質問(庄司一郎君外一名提出)

二 小串鑛山慘事ニ關スル再質問(須永好君外一名提出)

三 新潟縣下雪害豫防並救濟ニ關スル質問(今成留之助君外四名提出)

四 東北地方振興ニ關スル質問(田子一民君提出)

五 東京市小河内貯水池ニ關スル質問(大野伴陸君提出)

六 宗教ニ關スル質問(曾和義式君提出)

七 東北地方振興ニ關スル質問(田子一民君提出)

八 東北地方振興ニ關スル質問(庄司一郎君提出)

九 東北地方振興ニ關スル質問(田子一民君提出)

十 航空擴充ニ關スル決議案(多田滿長君外十九名提出)

十一 商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

十二 商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

十三 商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

十四 商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

十五 商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

十六 商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

○議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセ

(書記官朗讀)

衆議院議事速記録第三十一號 議長ノ報告

一 政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ

庄司一郎君外一名提出青年學校義務制度實施ニ關スル質問ニ對スル答辯書

須永好君外一名提出小串鑛山慘事ニ關スル再質問ニ對スル答辯書

今成留之助君外四名提出新潟縣下雪害豫防並救濟ニ關スル質問ニ對スル答辯書

田子一民君提出東北地方振興ニ關スル質問ニ對スル質問ニ對スル答辯書

大野伴陸君提出東京市小河内貯水池ニ關スル質問ニ對スル答辯書

曾和義式君提出宗教ニ關スル質問ニ對スル質問ニ對スル答辯書

青年學校義務制度實施ニ關スル質問主意書

(以上三月二十二日受領)

昭和十三年三月五日 提出者 庄司 一郎

外一名

青年學校義務制度實施ニ關スル質問主意書

政府ハ昭和十三年一月十一日ノ閣議ニ於テ全國公私立一萬七千二百二十餘ノ青年學校ニ昭和十四年度ヨリ斷然義務制度ヲ設置セシメタキモノナルカ政府ノ所信

如何現時ノ如キ全國一萬七千二百餘校置狀態下ニ在リテハ實ニ青年體位ノ爲憂慮ニ堪ヘサル所ナリ政府カ同校義務

二 青年學校ノ教育ヲ擴充強化シ内容ノ改善ヲ效果的タラシムル一方策トシテハ同校專任教員ヲ優遇スルコトモ急務ナリト信ス然ルニ現在專任教員數公立二萬餘人中僅ニ五十名程度ノ委任待遇者ヲ有スルニ過キス今少シク教員優遇ノ道ヲ講シ以テ公民、修身、職業各科へ優秀教育者ヲ招聘シ得ルヤウ改善ノ方途ナキヤ

三 青年學校ハ一面ニ於テ國民皆兵主義ノ建前ヨリ國家ノ干城訓練所ナリト謂フヘシ然ルニ同校軍事教練指導員ハ一

要ハ了解セル所ナルモ政府ハ單ニ昭和十三年度ヲ準備期間ニ充テ善處スト謂フノミニシテ此ノ劃期的大變革ニ直面シ何等

具體的ノ抱負、經綸、方途等ヲ示ササル為又青年學校教育費、國庫補助増額問題等ニ關シテハ些カモ發表ナキニ依リ今ヤ道、府縣、市町村等ノ同校管理者、教育關係者等ニ於テハ幾多ノ疑問、不安裡ニ彷徨シツツアリ其ノ義務制實施計畫上ニモ見透シ不明ニシテ對策ヲ講ズルニモ二ノ足ヲ踏ムト謂フ状態ニ在リ是レ左ノ重要關聯事項ニ關シテ政府ノ所信ヲ質サムトスル所以ナリ

モ見透シ不明ニシテ對策ヲ講ズルニモ二ノ足ヲ踏ムト謂フ状態ニ在リ是レ左ノ重彷徨シツツアリ其ノ義務制實施計畫上ニモ見透シ不明ニシテ對策ヲ講ズルニモ二ノ足ヲ踏ムト謂フ状態ニ在リ是レ左ノ重

要關聯事項ニ關シテ政府ノ所信ヲ質サムトスル所以ナリ

一 青年體位ノ向上ヲ達成セムカ爲ニ體育ヲ一層獎勵シ就中各實務勤勞ニ携ル生徒ノ疾患、體格發育上ノ不均整等ノ矯正上青年學校令ニ依リ校醫ヲ絶対ニ設置セシメタキモノナルカ政府ノ所信

ニ對シテ僅々四千五百餘名ノ校醫ノ設置狀態下ニ在リテハ實ニ青年體位ノ爲憂慮ニ堪ヘサル所ナリ政府カ同校義務

二 青年學校ノ教育ヲ擴充強化シ内容ノ改善ヲ效果的タラシムル一方策トシテハ同校專任教員ヲ優遇スルコトモ急務ナリト信ス然ルニ現在專任教員數公立二萬餘人中僅ニ五十名程度ノ委任待遇者ヲ有スルニ過キス今少シク教員優遇ノ道ヲ講シ以テ公民、修身、職業各科へ優秀教育者ヲ招聘シ得ルヤウ改善ノ方途ナキヤ

三 青年學校ハ一面ニ於テ國民皆兵主義ノ建前ヨリ國家ノ干城訓練所ナリト謂フヘシ然ルニ同校軍事教練指導員ハ一

何ナル措置ヲ今後執ラシメムトスルヤ
2 未發掘ノ遺骸カ今日尙二十一體ヲ

算フルコトハ前記ノ通ナルカ警察當局

ハ前記發掘打切後既ニ發掘セラレタ

ル氏名不詳ノ遺骸六十體ヲ殘餘ノ未

發掘ノ二十一體ニマテ分骨シ且ツ未

發掘ノ二十一名分ノ壓死檢死調書ヲ

作成シタリ此ノ經緯ヲ以テ推察スル

ニ當局ハ殘餘ノ遺骸發掘ヲ永久ニ打

切リタルモノト思ハルルカ如何又未

發掘犠牲者ニ檢死調書ヲ作成スル行

爲ハ果シテ適法ノモノナリヤ否ヤ

右及質問候也

昭和十三年三月二十二日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿

衆議院議長小山松壽殿

衆議院議員須永好君外一名提出小串鑛山

慘事ニ關スル再質問ニ對シ別紙答辯書差

進候

(別紙)

衆議院議員須永好君外一名ノ提出ニ係

ル小串鑛山慘事ニ關スル再質問主意書

ニ對スル答辯書

一一關シテ

本災害ハ全然不可抗力ニ起因スルモノ

ニシテ今日ノ所科學ノ力ヲ以テスルモ

到底豫知シ得ザリシモノナリ

二ニ關シテ

現行鑛業法及鑛業警察規則ニ於テハ鑛

業用建設物及工作物ノ設置ニ際シ其ノ敷地ノ地質ニ付テ特ニ調査ヲ爲スベキ

旨ノ規定存セザルモ問題ノ小串鑛山ノ製鍊場及鑛夫住宅ニ就テハ其ノ鑛山地帶ノ地形ニ鑑ミ特ニ頻發スルコトアルベキ雪崩等ノ災害防止ニ付充分ノ考慮ヲ拂ヒタル上別段支障ナキモノト認メ

發掘ノ二十一體ニマテ分骨シ且ツ未

發掘ノ二十一名分ノ壓死檢死調書ヲ

作成シタリ此ノ經緯ヲ以テ推察スル

ニ當局ハ殘餘ノ遺骸發掘ヲ永久ニ打

切リタルモノト思ハルルカ如何又未

發掘犠牲者ニ檢死調書ヲ作成スル行

爲ハ果シテ適法ノモノナリヤ否ヤ

右及質問候也

昭和十三年三月二十二日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿

衆議院議長小山松壽殿

衆議院議員須永好君外一名提出小串鑛山

慘事ニ關スル再質問ニ對シ別紙答辯書差

進候

(別紙)

衆議院議員須永好君外一名ノ提出ニ係

ル小串鑛山慘事ニ關スル再質問主意書

ニ對スル答辯書

一一關シテ

本災害ハ全然不可抗力ニ起因スルモノ

ニシテ今日ノ所科學ノ力ヲ以テスルモ

到底豫知シ得ザリシモノナリ

二ニ關シテ

現行鑛業法及鑛業警察規則ニ於テハ鑛

業用建設物及工作物ノ設置ニ際シ其ノ敷地ノ地質ニ付テ特ニ調査ヲ爲スベキ

モノト推定セラル而シテ之等ノ者ノ

遺族ハ弔慰金ノ受取等ノ爲會社側ニ對シ發掘屍體ヲ分骨シ速ニ本件ヲ收

拾スベキ旨ヲ要望シタルヲ以テ會社

側ニ於テモ種々協議ノ結果發掘セラ

レタル身元不詳ノ遺骨ヲ分骨シ一應

本件ヲ收拾スルコトトシタル次第ナ

リ

付テモ能フ限り考慮スル方針ナリ

三ニ關シテ

1 本災害ノ發生直後當局ニ於テハ崩

壊現場ヲ詳細ニ實查シタル結果流出

土砂ノ堆積セル區域全部ニ涉リ發掘

ヲ爲スニ於テハ再崩壊ヲ見ルノ虞ア

ルヲ以テ一定ノ危險區域ヲ指定シ該

區域ハ絕對ニ之ヲ發掘セシメザルコ

トトシ爾餘ノ安全ナル區域ニ付至急

發掘スベキ旨ヲ指示シタル爾來會社

側ニ於テハ銳意發掘作業ニ從事シ

豫定區域ノ發掘ヲ完了シタルガ今後

更ニ作業ヲ繼續スルコトセバ曩ニ

指定シ置キタル危險區域ヲ發掘スル

ノ外ナク直ニ再崩壊ヲ惹起スルノ危

險ヲ敢テ冒スコトトナルヲ以テ之ヲ

打切ラシムルモ亦已ムヲ得ザルモノ

ト思料シタルモノナリ

右ノ如キ事情ノ下ニ發掘作業ヲ打

切ルノ如キ事情ノ下ニ發掘作業ヲ打

リ此ノ多量ノ降雪ノ爲年々二百萬縣民ノ受クル被害ハ實ニ甚大ナリシモ長年月ニ瓦リ困苦缺乏ニ堪ヘ忍ヒ來リタルカ昭和九年及昭和十一年ノ豪雪ニ因ル慘害ハ一層甚シク之カ對策ニ焦慮一方ナラサリシニ更ニ本年ノ豪雪ト爲リ深雪地方民ハ茫然トシテ雪地獄ニ呻吟シ居ル窮状ニシテ此ノ地方ノ實情ヲ知ラサル人ニハ想像モ及ハサル慘狀ナリトス是等豪雪ノ被害ハ年々人畜ノ死傷ヲ招キ生活ノ不安ハ素ヨリ保健衛生上ニモ及ホス影響少カラサルノミニナラス教育上、交通上ノ支障ハ文化ノ進展ヲ阻害シ產業上ノ被害モ甚大ニシテ一々枚舉ニ暇アラスト雖モ重ナル降雪ノ害トシテハ耕地農道並灌溉排水路ノ決壊、林木ノ雪折及雪倒、炭窯ノ潰滅、養魚ノ死滅等ノ被害頗ル多ク融雪期ニ至リテハ山野ノ積雪カ一時ニ流出シ降雨モ加ハリテ洪水ヲ起シ堤防、人道、鐵路ノ決壊トナリテ家屋、耕地ヲ破壊シ交通ヲ絶スルノミニナラス冷水ノ流出ハ越後平野一帶ノ米作其ノ他農作物ノ成育ヲ妨ケ養蠶其ノ他ノ副業ヲ遲延セシムル等是等雪害、水害、冷害ノ頻發ニ因リ農民ノ憂慮ハ洵ニ同情ニ堪ヘス更ニ商工業者其ノ他庶民ニ於テハ商品原料ノ減退、契約取引ノ不能、運搬配給費ノ過重等直接間接ニ莫大ナル損失ヲ招キ連日連夜除雪ニ忙殺セラルル狀態ハ縣民ヲシテ生活苦ニ陥ラシメ疲勞困憊ノ極自暴自棄ニ陥ラムトスルノ傾向ナキニアラス洵ニ痛心ニ堪ヘサル所ナリ

今次支那事變ニ際シ積雪地方ノ縣民ハ婦人子供ニ至ル迄此ノ豪雪ヲ冒シテ出征將士ノ送迎ニ、戰病死將士ノ葬祭ニ、傷病兵ノ慰問ニ、遺家族ノ救護ニ有ユル困苦ト戰ヒ銃後ノ務ヲ怠ラサルヤウ專念スル有様ハ涙ナクシテハ到底語ル能ハスル地方ノ慘狀ニ對シテハ政治上各般ノ施設ニ付認識ヲ深メラレ之カ豫防救濟ニ最善ノ努力ヲ施サレツツアリヤ否ヤ更ニ今後如何ナル方法ニ依リ豫防救濟ノ途ヲ講セラル意圖ナリヤ否ヤ主ナル質問ノ要點ヲ左記ニ掲出シテ内務大臣、大藏大臣、遞信大臣、鐵道大臣、商工大臣、農林大臣、文部大臣及厚生大臣各位ノ明快ニシテ同情アル御答辯ヲ求メムトス

一 醫療救護施設ノ途ヲ講セラルルヤ
積雪地方ニ於テハ流行性ノ感冒、眼病等蔓延シ住民ノ殆ト全部カ冬期間二三回必ス罹病シ輕微ナルモノニテ一週間、稍、重態ナルモノハ二三箇月間之ニ冒サル状態ニシテ小學校ノ如キハ全兒童感染シ爲ニ一二週間休校ノ止ムナキニ至ルモノ多ク之カ被害モ亦甚大ニシテ其ノ對策施設ヲ講スルハ忽セニスヘカラス政府ハ各町村ニ醫療施設ヲ完備セラルト共ニ各學校ニ救護施設ヲ完備セラルノ意思ナキヤ

二 義務教育費國庫下渡金増配ノ方途ナ
力ヲ枯渴シ諸稅負擔ニ堪ヘサル者續出シ町村財政ハ益々窮迫ノ度ヲ重ネツツアリ

然ルニ町村經費ノ大部分ヲ占ムル義務教育費中教員俸給ハ法令ノ命スル所不拂ヲ許サス仍テ義務教育費國庫負擔法施行令中雪害ニ依ル特別交付金ヲ増額シ教員俸給ニ接近スル迄ノ額ヲ支出セラルルノ意思ナキヤ

三 積雪ノ爲特ニ要スル教育施設費ニ對

シ國庫補助ノ途ヲ講セラルルヤ

往復ニ對シ特ニ道踏ヲ要スルハ勿論低學年兒童歸宅ノ際ハ父兄及教員ノ附添ヲ要シ其ノ他莫大ノ費用ヲ要スルヲ以テ是等ニ對シ雪國地方トシテ特別補助ノ途ヲ講セラレ尙ホ雪國地方トシテ特ニ學校衛生方面即チ流行性感冒及眼病等ニ對シ或ハ連日ノ大吹雪ニ於ケル兒童ノ苦ミヲ考慮セラレ冬期休暇其ノ他衛生施設ノ完備ヲ期セラルルト共ニ施設ニ對シ相當助成ノ途ヲ講セラルル意思ナキヤ

四 小學校校舍除雪費ニ對シ補助金ヲ交付セラルル意思ナキヤ

當地方ハ積雪多キ爲兒童ノ通學困難ヲ感スルヲ以テ各町村共ニ校舍數多ク自然校舍除雪費多額ニ上リ豪雪ニ當リテハ冬季八回乃至十回(平年ハ五六回)ノ除雪ヲ要シ其ノ經費既ニ一村平均一千五百圓ニ達シ町村財政ニ甚大ナル影響ヲ及ホスヲ以テ之ニ對シ特別補助ノ途ヲ講セラルルヤウセラレタキコト

五 交通被害防止策ヲ講セラルルヤ否ヤ
國盤道ハ豪雪ノ爲往來ノ絶ユルコト屢々
當地方ニ於ケル普通苗代作業開始ハ四

ニシテ交通及物資ノ運搬ニ支障ヲ來スコト大ナルヲ以テ雪道開通費ニ對シ相當助成セラレ且ツ積雪ノ爲數十日ニ瓦ル間交通杜絶スル箇所多ク加之人命ニ及ホスコト往々アルヲ以テ之カ恒久施設トシテ「スノーセット」ノ如キ適切ナル施設ヲ講セラルルノ方途ナキヤ

六 道路橋梁其ノ他ノ工作物破損ニ對シ

對策ヲ講セラルルヤ否ヤ

本冬ノ降雪量ハ頗ル多ク爲ニ水路河川ノ出水甚シク道路堤塘ノ破壊、橋梁ノ流失等極メテ多カルヘシ然ルニ當地方民ハ雪害ニ因リ收入激減セルノミナラス除雪ニ費シタル出費甚大ナルヲ以テ稅負擔力著シク減退シ是等復舊工事ハ到底至難ニ付從來ノ例ニ倣ヒ復舊費ノ四分ノ三ヲ補助金ニ殘金四分ノ一ハ低利資金ニ依リ救濟セラルル意ナキヤ

七 農會活動資金補助ノ途ヲ講セラルルヤ
雪害ニ因リ農家收入激減シ加フルニ防除費等ノ莫大ナル支出ヲ要シ爲ニ農會費ノ如キハ滞納續出シ今後ノ對策ニ最モ活動セサルヘカラサル農會カ其ノ活動ニ支障ヲ來スコト明カナルヲ以テ昭和九年凶作對策トシテ各町村農會ニ活動助成金ヲ交付セラレタル例ニ倣ヒ縣農會ヲ通シテ同シク相當ノ金額ヲ補助セラルル意ナキヤ

八 水稻育苗施設ニ對シ助成スルノ意思ナキヤ
當地方ニ於ケル普通苗代作業開始ハ四

月中旬ナルモ本年ノ如キハ積雪多量ノ爲融雪期五月末ヲ豫想セラルルヲ以テ苗代用地ノ除雪ニ依ラサレハ適期播種不可能トナリ甚シキ地方ニ於テハ除雪ニ依ルモ尙ホ育苗困難ナル所相當多ク委託苗代ニ俟タサレハ育苗シ能ハサルヲ以テ其ノ除雪竝委託苗代設置ニ對シ助成ノ途ヲ講セラレタキコト

九 人工消雪助成ノ途ヲ講究セラルル意

思ナキヤ

豪雪ヲ自然ノ儘ニ放任セムカ前項同様融雪遲レ水稻(本田)、普通烟作、桑園等ノ作業著シク遲延シ延テハ是等作物ノ收量ニ及ホス影響大ニシテ、人工消雪(土撒キ、溝立、穴掘リ)ニ依リ融雪促進ヲ圖ルノ外途ナキヲ以テ之カ所要經費ニ對シ助成ノ途ヲ講セラレタキコト

一〇 耕地農道及用水路復舊ニ付助成ノ途ヲ講セラルルヤ

豪雪ノ爲耕地ノ決壊、農道用水路ノ破損スルコト多ク耕作上重大ナル支障ヲ來スヲ以テ之カ復舊助成ノ途ヲ講セラレタキコト

一一 雪害ニ對スル養蠶機構改革ニ對シ助成ノ途ヲ講セラルルヤ

年々雪害ニ惱マサレツツアル當地方ニ於テハ從來ノ個人的經營ニテハ生產ノ合理化ヲ圖リ得ス之ヲ稚蠶共同飼育所ノ設置、稚蠶共同桑園ノ設置並指導員ノ設置ニ依ル共同飼育ノ實行ヲ圖リ一面桑ノ雪害ヲ免ル手段トシテ春蠶三分、夏秋蠶七分ノ經營ニ之ヲ改革セム

トス然シテ之カ改革ニ當リ春蠶専用桑園ヲ改植シ春秋兼用、夏秋兼用桑園ニ改ムトスルヲ以テ稚蠶共同飼育所建設助成、稚蠶共同桑園設置助成、技術員設置助成及桑園改植助成等ノ途ヲ講セラレタキコト

一二 桑園ノ整理改植ニ對シ相等助成セラルノ意思ナキヤ

前例ニ依レハ本冬ノ雪害ニ因リ桑樹ノ折傷捻挫ハ勿論野鼠及胴枯病ノ被害甚シク七千町歩ノ内春蠶桑園三千五百町歩殆ト全滅ノ慘状ヲ呈シ本春ノ養蠶ハ半減若ハ全廢ノ已ムナキニ至ルヘク實ニ養蠶業者ニ對シ經濟的一大致命傷ヲ與フルモノト謂フヘシ而モ整理改植ニ要スル資力ヲ有スル者極メテ少ナク窮状見ルニ忍ヒサルモノアリ仍テ被害甚ナル桑園ニ對シテハ改植ニ要スル段當經費六十圓ヲ、其ノ他被害桑園ニ對シテハ整理費等段當二十圓ヲ補助スルノ途ヲ講セラレタキコト

一三 病害防除ニ對シ助成ノ途ヲ講セラル意思ナキヤ

本冬ノ積雪ハ其ノ量多ク而モ其ノ質頗ル緊密ニシテ融雪ノ時期遲延シ溉灌水源タル山地ニ於テ最モ遲キヲ以テ溉灌水ノ溫度低キノミナラス氣温亦々低下スヘシ從テ苗ノ腐敗病、稻熱病ノ發生猛烈ナルハ火ヲ堵ルヨリ明カナリ其ノ儘放置スルトキハ昭和九年ノ轍ヲ踏ムコトトナリ沟ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ故ニ之カ對策トンテ苗代ニ「ボル

一四 冬作物全滅ニ依リ相當助成ノ途ヲ講セラル意思ナキヤ

雪害ニ依リ菌核病其ノ他ノ病害甚シク大小麥、紫雲英、薹苔等ノ冬作物ハ全滅ノ外ナキヲ以テ之カ代作物及跡作トシテ陸稻、甘諸、馬鈴薯、粟、黍等ノ栽培ヲ極力獎勵スルノ必要アレトモ今春ニ於ケル播種ニ要スル種苗等目前必須ノ購入資金全ク缺乏ノ狀態ナルヲ以テ右ニ對シ特ニ全額支給ノ途ヲ講セラレタキコト

一五 果樹被害復舊ニ對シ助成ノ途ヲ講セラル意思ナキヤ

降積雪激甚ノ爲柿、栗、葡萄ハ殆ト全部雪折ト爲り收穫皆無ニシテ而モ之カ復舊ニハ尙ホ數年間ヲ要スルヲ以テ果樹園復活ニ要スル經費ニ對シ補助ノ途ヲ講セラレタキコト

一六 植林地ノ被害ニ對シ復舊費及整理費ヲ補助セラル意思ナキヤ

雪倒及崩雪ニ因ル林木ノ被害激甚ヲ極メ之カ復舊ニ要スル人夫賃、繩代等ハ實ニ莫大ナル金額ニ達スルモノト豫想セラレ且又雪折林木ノ損失少カラサルモノアレハ是等復舊費及整理費ニ對シ

一七 炭窯壞滅ニ對シ助成セラル意思ナキヤ

豪雪ノ爲木炭窯破損壞滅シ中產以下ノ製炭業者ハ之カ修理築造ニ困難ヲ來シ從テ生計ニ差支ヲ生スルヲ以テ之カ助成ノ途ヲ講セラレタキコト

一八 家畜斃死、罹病等ニ關シ救濟ノ途ヲ講セラル意思ナキヤ

多量ノ積雪ニ因リ甚シク家畜ノ偏食、運動不足、畜舍不潔、採光不能ヲ來シ斃死、罹病、流產等極メテ多ク其ノ損害莫大ナルモノアルヲ以テ畜舍ノ改造ニ對シテハ其ノ半額ヲ補助シ半額ニ對シテハ低利資金融通ノ途ヲ樹テ罹病家畜ニ對シテハ無料診療ノ施設ヲ講セラレタキコト

一九 鯉魚斃死ニ對シ對策ヲ講セラル意思ナキヤ

當地方ノ農家唯一ノ副業タル養鯉カ長期間ニ瓦ル積雪ノ爲水路ノ不完全ニ因リ高價ナル觀賞用竝種鯉其ノ他全滅ノ狀態ニアルヲ以テ用水路改良ニ必要ナル助成、生糞ノ改良ニ必要ナル資金ノ融通助成等ノ方策ヲ講セラレタキコト

二〇 政府事業中家庭工業的作業ハ之ヲ融通助成等ノ方策ヲ講セラル意思ナ地租ハ土地收益ヲ基準ニ取扱方ヲ改訂セラレタキコト

二一 工場建物除雪費ニ對シ補助金ヲ交付セラル意思ナキヤ

當地方ハ降雪多キ爲豪雪ニ當リテハ冬期間八回乃至十回ノ除雪ヲ要シ其ノ除雪費亘額ニ上リ工場經營頗ル困難ノ状態ナリ而シテ多額ノ所要經費ヲ惧レ除雪ヲ怠ラムカ工場ノ壞滅ハ勿論延テハ人命ニ及ホス等幾多ノ由々シキ事態ヲ惹起スルニ至ルコトアルヲ以テ豪雪地方ノ各種工場ノ發展ヲ期スル爲除雪費ニ對シ相當補助ノ途ヲ講セラレタキコト

二二 臨時地方財政調整交付金増配ノ意ナキヤ

雪害ニ因リ町村財政ハ益、收支ノ均衡ヲ失シ加速度的に破綻ノ危機ヲ早メツツアル現狀ナレハ臨時地方財政調整交付金ニ付テハ豪雪地帶ノ事情ヲ御考慮ノ上特別配分ノ方策ヲ講セラルヤウセラレタキコト

二三 地租取扱方改訂セラルノ意思ナキヤ

二四 所得稅、營業收益稅ノ課稅標準低下ノ途ヲ講セラル意思ナキヤ

雪國地方ニ於ケル所得並營業收益ハ經營、生活ニ苛重ノ經費ヲ要スルヲ以テ

其ノ課稅ニ當リ他地方ト之ヲ區別シ標
準ヲ低下セラレ其ノ負擔ノ均衡ヲ得シ
メラル途ヲ講セラレタキコト

二五 家屋稅特別減免ノ途ヲ講セラル
豪雪地方ノ家屋ハ耐雪ヲ主眼トシ用材
多ク且ツ頑強宏大ナルモノ多キハ止ム
ヲ得サル所ニシテ而モ冬期除雪ニ勞役
及經費ヲ要スルコト甚大ナルニ鑑ミ特
ニ家屋稅ヲ全免又ハ輕減スル途ヲ講セ
ラレタキコト

二六 市街地除雪ヲ國費ヲ以テ助成セラ
ルル意思ナキヤ

降雪二〇米ノ當地方ニ於テハ家屋、道
路ノ除雪費莫大ニシテ殊ニ市街地ニ於
ケル遠方マテ運搬シ或ハ道路ニ築キ上
クル除雪作業ニ付テハ住民ハ之力爲如
何ニ苦心スルカ商業不振ニ加ヘテ多額
ノ除雪費支拂ニ窮スル狀態ハ洵ニ心痛
ニ堪ヘサル所ニシテ相當助成セラレタ
キコト

二七 雪國地方ニ於ケル火災保險料減額
ニ付助力セラルル意思ナキヤ

積雪地方ニ於ケル災火ハ他地方ニ比シ
其ノ類焼殆ドナキ爲火災保險料ヲ同一
ニ取扱ハルハ徒ニ加入者ノ負擔ノミ
苛重スルモノニシテ積雪地方殊ニ豪雪

地方火災保險料ヲ減額セシメラルルヤ
ウ各會社ニ交渉セラルノ意ナキヤ

二八 農業保険制度ノ立案ニ當リ雪害ノ
被害ニ付テモ農業保險ノ途ヲ開カル
意思ナキヤ

二九 積雪地方ノ通信機關ノ擴充ヲ圖リ
通信ノ遲延ヲ防止スル途ヲ講セラル
意思ナキヤ

三〇 降雪ニ因ル鐵道ノ事故防止ニ付今
後如何ナル方途ヲ講セラルル意思ナリ
ヤ

三一 雪害防止ニ關スル指導竝調査機關

ヲ設置セラルル意思ナキヤ

雪害ニ對スル調査研究竝指導機關トシ
テ新潟縣農事試驗場堀之内試驗場ヲ國
立試驗場ニ昇格ノ上之ガ擴張ヲ期セラ
ルル意ナキヤ

三二 雪害調査員ヲ即時派遣セラルル意
思ナキヤ

政府ニ於テハ右要望事項ニ付即時施設
ヲ講セラルルト共ニ豪雪地方ノ實情ヲ
認識セラルル爲各省要路ノ人ヲ急遽派
遣セラレタキコト

右及質問候也

昭和十三年三月二十二日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
衆議院議長 小山松壽殿

衆議院議員今成留之助君外四名提出新潟
縣下雪害豫防竝救濟ニ關スル質問ニ對シ
別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員今成留之助君外四名提出新潟
縣下雪害豫防竝救濟ニ關スル質問ニ對シ
別紙答辯書
對スル答辯書

六箇所ノ診療所ヲ配當シタルガ同十三
年度ニ於テモ引續キ若干ノ診療所ヲ配
當シ醫療機關ノ普及整備ニ努ムル考へ
ナリ尙各小學校ニハ現ニ學校醫ノ設置
アリ、又近年學校看護婦ノ設置漸ク普
及セントスル傾向ニアリ學校衛生トシ
テハソレ等ノ機關ヲ督勵シ平素ニ於ケ
ル衛生養護上ノ注意ヲ一層嚴ニシ健康
ノ保持ニ努メシムルトトモニ進ンデ體
位ノ向上ニ關シ研究竝指導上ニ遺憾ナ
キヲ期セントス

二、雪害ニ依ル被害夥シキ場合ハ當該市

町村長ヨリノ申請ニ基キ義務教育費國
庫負擔法施行勅令第七條ノ規定ニ依リ
災害直後增加交付金ヲ交付シ又必要ニ
應ジテハ係官ヲ特ニ災害地ニ急派シ其

ノ實狀ヲ調查セシメ義務教育費國庫負
擔法第四條又ハ第五條ノ規定ニ依ル國
庫交付金ヲ出來得ル限り増加シ教員俸
給ノ支拂ニ支障ナキヤウ萬全ヲ盡シツ
ツアルモ尙今後ハ一層留意スルコトニ
致度

三、四、特別補助ノ途ヲ講ズルコトハ將

來篤ト考究スベキモノト認メラルルモ
現在ニ於テモ斯ノ種ノ施設ニ多額ノ經

費ヲ要スル場合ハ義務教育費國庫負擔
法第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ國庫
交付金ヲ增加シ以テ教育經費ニ對スル
市村町負擔ノ輕減緩和ニ努メツツアル
モ尙一層此ノ點ニ付テハ考慮致度又暖
房ノ設備、辦當ノ保溫、學校給食防寒
用衣服等ノ配給、清潔ノ保持、眼ノ衛

生等冬季ニ於ケル學校ノ衛生養護ニ關
シテハ將來一層ノ注意ヲ拂ハシメン
トス

五、國道及府縣道ノ雪害開通費ニ對スル
助成竝「スノーセット」ノ如キ雪害防止
施設ニ付テハ將來篤ト考究スルコトト
致シタシ

六、災害土木費國庫補助ニ依リ復舊費ニ
對シ國庫補助スル見込ナリ

七、雪害ニ對シ農會ニ助成金ヲ交付シタ
ルコトナキモ目下調査員ヲ派シ調査中
ニ付其ノ結果ニ依リ考慮セントス

八、九、三月十四日ヲ期シ係官ヲ派遣シ
雪害狀況ヲ調査セシムルコトト致シタ
ルヲ以テ其ノ調査ノ結果ヲ俟チ之ガ具
體案ニ關シ充分考慮セントス

一〇、雪害等不測ノ天災ニ因リ耕地並ニ
農道及用水路等耕地ニ關スル施設ノ被
害ハ近年ニ於テ特ニ甚大ナルモノアリ
之等ノ内當該地方ノミノ力ニヨリテハ

復舊困難ト認メラルモノニ對シテハ
其ノ都度國ヨリ相當ノ助成金ヲ交付シ
テ之ガ復舊ヲ促進シ來レルトコロナル
ガ將來ニ於テモ同一方針ニ基キ遺憾ナ
キヲ期セントス

一一、雪害ニ對スル養蠶機構ノ改革トハ
蠶七割ノ經營ニ之ヲ改メシムルト共ニ
稚蠶共同飼育所ノ設置、稚蠶共同桑園
ノ設置及技術員ノ設置等ヲ獎勵シテ從
來ノ個人經營ヲ共同飼育ニ合理化セシ
メ以テ雪害ノ防除輕減ニ資セシメント

スルモノノ如キモ右ノ諸施設ニ對シテハ既ニ夫々助成シ來レル所ナルヲ以テ之ガ運營ニ依リ相當效果ヲ收メ得ラルモノト認ム

一二、桑園ノ整理、改植及混作事業ハ昭和九年度以來養蠶地方施設トシテ計畫的ニ之ガ助成ヲ成シ來レル所ニシテ明年度ニ於テモ引續キ助成ヲ爲ス計畫ナリ而シテ本冬ニ於ケル桑園ノ雪害ニ關シテハ今後被害狀況ヲ調査ノ上必要ニ應ジ之ガ對策考究スペシ

一三、一四、一五、三月十四日ヲ期シ係官ヲ派遣シ雪害狀況ヲ調査セシムルコト致シタルヲ以テ其ノ調査ノ結果ヲ俟チ之ガ具體策ニ關シ充分考慮セントス

一六、植林地ノ降雪被害ニ付テハ目下調查中ニ付之ガ完了ヲ俟ツテ適當ニ善處セントス

一七、炭窯ノ被害ニ付テモ調査ノ上考慮

一八、目下之ガ狀況ヲ調査中ナルヲ以テスベシ

一九、縣ニ於テ鯉魚乾死ニ對シ對策ヲ講ズルニ於テハ副業獎勵費ノ交付等ニ依リ之ヲ助成セントス

二〇、政府事業中家庭工業的作業ヲ地方ニ行ハシムルコトニ付テハ篤ト考究セントス

二一、相當多額ノ經費ヲ必要トスルヲ以テ之ガ實施ニ關シテハ尙慎重攻究ノ要アルモノト認ム

二二、臨時地方財政補給金ハ雪害地方ノ如キ特定ノ地域ニ對シ特ニ増率配分ヲ爲スハ配分方法トシテ適當ナラザルモノト認ム唯實際問題トシテハ真ニ負擔ノ過重ナル地方ニ對シテハ配分額ガ多額トナルベキ配分方法ヲ採用スベキニ付其ノ結果自然多額ノ配分ヲ受クル見込ナリ

二三、地租ヲ土地ノ收益ヲ基準トシテ課稅スルコトハ多大ノ手數ト經費トヲ要スルヲ以テ實行困難ナリ尙地租ノ課稅標準タル賃貸價格ハ田畠等ニ付テハ既往五ヶ年ノ實收小作年ノ平均ニ依リ定メタルモノナレバ豪雪地帶ニ於ケル災害等ノ特殊事情ハ十分表顯セラレ居ルモノト認ム從テ之ニ對シ特別ノ取扱ヲ爲ス意志ナシ

二四、雪國地方ハ他ノ地方ニ比シ經營上不利ナル立場ニ在ルニ鑑ミ所得稅及營業收益稅等ノ調査ニ當リテハ從來ト雖モ各地ノ實情ニ即應セシムルコトヲ期シ來レル所ナルモ所得又ハ純益ノ種類ニ依リテハ他ノ地方ニ比シ多額ノ必要經費ヲ要スルモノアルベキヲ顧慮シ十分調査ヲ遂げ之ヲ控除スル方針ヲ採ラシメツツアリ又雪害ニ因リ所得又ハ純益ノ著シ減損シタルトキハ減損更訂ヲ爲シ得ベク大體現行法ニ於テ負擔ノ均衡ヲ達シ得ルモノト認メラル

二五、豪雪地方ノ家屋稅特別減免ニ付テハ他ノ稅トノ負擔關係並ニ地方財政ノ現狀ニ鑑ミ之ガ實施ハ困難ナルベシ

二六、市街地除雪費ニ對スル國庫助成ニ關シテハ國庫財政ノ現狀ニ鑑ミ之ガ實現ハ困難ナリ

二七、我國火災保險料率ハ主務官廳ノ認可ノ範圍内ニ於テ大日本火災保險協會所定ノ料率ヲ標準トシテ決定セラレ居ル處雪國地方ニ於ケル火災保險料率ニ付テハ調査ノ上若シ他地方ニ比シ特ニ高率ナルノ事實アルニ於テハ適當ナル措置ヲ講ズルコトト致シ度シ

二八、農業保險ニ在リテハ直接收穫上ノ減收ニ基ク損失ヲ填補輕減セントスルヲ主眼トシタルモノニシテ其ノ農作物及保險事故モ可成一般的ノモノヲ選定セル外特ニ雪害ニ付テハ保險料率ノ算定ノ困難ナル等ノ爲一應之ヲ保險事故中ヨリ除外セルモノナリ、依ツテ雪害ヲ保険事項中ニ含マシムルコトニ就テハ尙調査研究ノ要アルモノト認ム

二九、(一) 郵便關係
郵便局所ノ設置ニ付テハ地況交通關係ニ鑑ミ局所設置標準ヲ相當低下シ之ガ普及ニ努メツツアリ又降雪期ニ於ケル郵便ノ遲延防止ニ就テハ集配遞送手ノ増員ヲ行フハ勿論遞送集配用スキーラ設備シ相當之ガ救濟ヲ圖リツ

(1) 主要幹線ノ裸線路ニ對シテハ線路ノ選定ニ當リテハ雪崩其ノ他雪害ノ虞アル個所ヲ避クルコト

(2) 線路ノ選定ニ當リテハ雪崩其ノ他雪害ノ虞アル個所ヲ避クルコト

(3) 經過地ヲ異ニスル線路ヲ二個以上選定建設スルコト

(二) 電信電話關係

1 電信電話機關ノ擴張

積雪地方ニ於ケル電信電話機關ノ特ニ必要ナルコトハ充分認識シ居ル處ナルヲ以テ之ガ施設ニハ他地方ニ比シ比較的多額ノ經費ヲ要スルニモ拘ラズ著々普及ニ努メツ、アルモノトス而シテ

(4) 降雪多キ地方ハ柱間距離ノ短縮、支柱、支線ノ支持等ニヨリ特ニ線路ノ堅牢ヲ期シ居ルコト

(5) 一般ノ地方ニ比シ線路沿道ノ樹木ノ伐採碍子ノ掃除、腕木ノ修理等障碍ノ原因除却ニ就キ格段ノ注意ヲナシ線路ノ保守上ニ對シ遺憾ナキヲ期シ居ルコト尙雪害ニ因リ常用回線羅障ノ場合ハ次ノ如キ通信連絡上ノ措置ヲ講ジ居レリ

イ、他線迂廻ニ依リ臨機通信ノ途ヲ講ズルコト
ロ、高速度能率ノ機械ヲ装置シテ極力通信ノ疏通ニ努ム
ルコト

八、目下新潟ニ建設工事中ノ航空無線電信局及海岸局ニハ有線電信杜絶等ノ際新潟郵便局ヨリ直接之ヲ運用シ主要都市トノ連絡ヲ圖リ得ル様設計シアリ

三〇、安全ニ列車ヲ運轉スル爲雪害地方ノ線路防雪ニ對シテハ防雪林、雪覆、頽雪止擁壁等設備ノ充實ヲ計ルト共ニ除雪ニ付テハ人力ハ勿論機械力ノ増備ニ依リ列車運轉ノ確保ニ努メツ、アリ從來線路ノ防雪設備ニ八年々相當多額ノ經費ヲ支出シ居リ現在モ施設ノ普及ト機械ノ増備ニ就テハ充分考慮シ居リ

一方本問題ノ重要性ニ鑑ミ昭和八年十一月「鐵道省雪害對策委員會」ヲ設ケ

内務省雪害對策調査會ト連絡ヲ保チ鐵道關係事項ニ付調査ヲ進メ來レリ、而シテ昭和十年十二月第六回内務省雪害對策調査會ニ於テ決議セラレタル防雪設備ノ充實ヲ圖ルコト、雪搔車ヲ増備スルコト、通信施設ノ改善充實ヲ圖ルコト等現在充實普及ニ意ヲ注ギ居ル次第ナリ

三一、新潟縣立農事試驗場、堀之内試驗地ハ專ラ農作物ノ雪害防除ニ關スル試驗研究ヲ行フ目的ヲ以テ昭和十二年度國庫ヨリ獎勵金二万二百圓ヲ交付シ設置セシメタルモノニシテ昭和十三年度以降ニ於テ同試驗地ノ費用ニ對シ其ノ見込ニシテ今後財政事情ノ許ス限り之ガ施設ノ擴充ヲ圖ラントス尙本試驗地ヲ國立試驗場ニ昇格セシムルコトニ付テハ目下ノ處考慮シ居ラズ

三二、本年ハ各地方共積雪多キ特ニ新潟縣ハ其ノ被雪夥シキ模様ナルヲ以テ此ノ際應急ニ措置ヲ講ズルノ必要アルモノニ付テハ夫々適當ナル方策ヲ考究中ナルモ各省トシテハ係官ヲ派遣シ雪害ノ狀況ヲ視察調査セシメツツアリ右及答辯候也

昭和十三年三月二十二日

遞信大臣 永井柳太郎

大藏大臣 賀屋 興宣

農林大臣 伯爵有馬 賴寧

商工大臣 吉野 信次
鐵道大臣 中島知久平
文部大臣 侯爵木戸 幸一
厚生大臣 侯爵木戸 幸一
内務大臣 末次 信正

東北地方振興ニ關スル質問主意書
提出者 田子 一民
東北地方振興ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

昭和十三年三月九日

東北地方振興ニ關スル質問主意書
東北地方ハ文化、經濟、產業、交通等他地方ト全然其ノ趣ヲ異ニスルモノアリ其ノ生活ハ專ラ原始産業ニ依存スルニ拘ラス天惠薄クシテ生産ハ其ノ生産費ハ償ハス交通不便ニシテ生産物ヲ他地方ニ移出シ難キモノアリ縣稅、市町村稅ハ擴稅力ニ對シテ極メテ過重ニシテ庶民其ノ重壓ニ苦シミ災害ハ海陸ニ臻ルコト頻リニシテ之カ回復ノ能力ヲ失ハムトス庶民其ノ堵ニ安ンセサルハ實ニ國家ノ憂患ナリ政府ハ此ニ鑑ミル所アリ義ニ東北振興調査會ヲ設ケ東北地方窮乏ノ原因ヲ探求シ且ツ之カ排除ニ關シ諸政策ノ樹立ヲ圖レリ東北振興調査會ハ銳意之カ調査ヲ進メ東北地方振興綜合計畫ヲ答申スル所アリト雖モ東北民ノ期待ニ副ハサルモノ多シ寔ニ遺憾ニ堪ヘサルナリ近衛内閣總理大臣ハ東北振興調査會長ニ就任セラルヤ急遽調查會ヲ開會シ「東北振興諸政策ノ實行ヲ以テ國策實行ノ一ナリ」ト述へラレ昭和十三年度豫算モ之カ爲增額ヲ考慮スル旨

ヲ明カニセラレタリト雖モ偶々支那事變突發シ財政計畫ニ變化ヲ來シ東北振興事業モ繰延ヲ見ルニ至レリ元來東北振興調查會ノ設置セラレタル所以ノモノハ東北地方ノ特異性ニ因ルモノニシテ今次事變ノ爲事業ノ繰延ヲ爲スカ如キ他地方ト同一視スルハ東北地方ノ實情ヲ無視スルモノト謂フヘシ惟フニ東北振興調查會設置以來僅カ數年ノ間ニ内閣ヲ交送スルコト三回委員及幹事殆ト代リ各省次官、局長、課長ノ如キモ悉ク交送スルニ至リ東北振興ノ何物タルヤ忘却セラレタルノ感アルハ真ニ遺憾ニ堪ヘサルナリ現時局下ニ於テ東北振興ノ事業ハ銑後ノ計トシテ一日モ之ヲ緩セニスヘカラス政府ハ斷乎トシテ真ニ遺憾ニ堪ヘサルナリ現時局下ニ於テ東北振興綜合計畫實現ニ邁進スヘキモノナリト信ス仍テ左ノ諸點ニ關シ政府ノ所見ヲ問ハムト欲ス

一、政府ノ東北振興綜合計畫實施ニ關スル所見如何 惟フニ東北振興綜合計畫ハ統一セル計畫タルノミナラス年度ヲ劃シ一進一退ノ弊ヲ排シ連絡統制ヲ保チテ之カ實現ヲ期スヘキモノナルニ豫算ノ編成及實行ニ當リテモ他地方ト何等ノ特異性ヲ認メサルハ東北振興調查會ノ答申ノ趣旨ヲ無視スルモノニアラスヤ

二、東北廳ノ設置ニ關スル所見如何 三、東北地方ニ於ケル縣稅及市町村稅ハ負擔力ニ比シ著シク過重ナルハ争ヒ難キ事實ナリ茲ニ其ノ一二ノ事例ヲ示セハ左ノ如シ

直接國稅一圓ニ對スル縣稅、市町村稅
ノ割合(昭和十年度豫算額)

縣名	縣稅	市町村稅
青森	一、九〇六	二、八七五
岩手	一、五三六	二、四四五
宮城	一、三九〇	一、九八七
秋田	一、一三三	一、九一七
山形	一、一五四	一、五六七
福島	一、五一〇	二、一七三
平均	一、三八二	二、〇五九
全國平均	〇、五六五	〇、八八九

直接國稅ハ擔稅力ヲ窺フ一資料ナリ而シ
テ直接國稅一圓ニ對スル縣稅ノ割合ハ全
國平均五十六錢五厘ナルニ東北六縣平
均一圓三十八錢二厘、即チ倍額以上ニシ
テ青森縣ハ三倍ヲ超エ岩手縣ハ三倍ニ近
カラムトスルノ狀態ナリ之ヲ市町村稅ニ
就イテ見レハ國稅一圓ニ對スル割合ハ全
國平均八十八錢九厘ナルニ東北六縣ハ二
圓〇五錢九厘ノ高率ヲ示ス狀態ナリ東北
地方ハ縣財政、市町村財政經理ニ如何ニ
重稅ヲ負擔シツツアルカヲ窺フニ足ルヘ
シ又昭和十年ニ於ケル生産額一人當リ東
北六縣平均ハ九十八圓三十九錢ナルニ對
シ他府縣ハ二百十一圓十九錢ニシテ東
北六縣平均二千五百萬圓、他府縣ハ平
均二千萬圓、之ヲ歲出ノ比率ニ求ムルニ
前者ハ一割九分後者ハ一割一分ナリ斯
ノ如ク一二ノ事例ニ徵スルモ東北地方
ハ資力薄弱ナルニ拘ラス縣、市町村行政
ノ爲公租ノ重壓ヲ受ケツツアルヲ知リ

得ヘシ仍テ國庫ノ補助助成等ニ依リテ
行フ縣、市町村ノ事業ニ就テハ特ニ他
地方ト異リタル高率ナル補助助成ヲ爲
ササレハ獨リ事業ノ促進ヲ期シ難キノ
ミナラス地方債ノ過重ヲ來ス虞アリ故
ニ右補助助成ヲ他地方ヨリ高率タラシ
ムヘキコトハ東北振興調査會ノ答申セ
ル所ナリ然ルニ之カ實行ハ極メテ小範
圍ニ止マリ諸種ノ法律、豫算ニ何等ノ
考慮ヲ加ヘサルハ如何ナル理由ナルカ
政府ノ所見ヲ問フ

四 災害土木費縣債利子全額國庫補助ニ
關シテモ東北振興調査會ノ答申セル所
ナリ之ヲ徹底的ニ實施スルノ意思ナキ
ヤ政府ノ所見如何

五 交通網ノ完成ハ東北振興上最モ急務
トセル所ナリ仍テ鐵道建設及道路、港
灣修築ノ諸計畫ハ豫算ニ計上セラレタ
ルニ拘ラス之カ繰延ヲ行フカ如キハ東
北振興ニ關スル政府ノ所信ヲ疑ハサル
ヲ得ス支那事變下ニ於ケル財政上已ム
ナキ事情アリトスルモ全國ヲ一率一體
按分的ニ繰延ヲ行フ如キハ東北振興ニ
關スル所信ヲ二三ニスルモノタリ政府
ハ昭和十三年度以降ニ關シテハ再検討
ヲ加ヘ交通網急速完成ノ要アリト認メ
サルカ所見如何

九 臨時地方財政調整交付金支出額昭和
十三年度一億圓ニ對シ更ニ五千万圓ヲ
下サル程度ニ於テ増額スベシトノ衆議
院ノ要望ニ對シ政府ハ目下考慮中ナリ
而シテ交付金創定ノ根據ハ農山漁村ニ
於ケル財政窮乏ヲ緩和スルノ趣旨ニ出
テタルコトハ之ヲ知ル所ナリト雖モ之
カ交付ヲ受クルモノハ府縣町村トシ市
ニ在リテハ人口五萬以下ノモノニ限り
タルハ安當ニアラス町村ト雖モ人口五
萬ヲ超ユルモノアルヘク市ト雖モ財政
ノ窮乏ヲ利用シ山林ノ濫伐ノ弊ニ陷ラム
市ニモ交付金ヲ交付スル以上人口五萬
ヲ交付ノ一標準ト爲スカ如キハ餘リニ
形式ニ墮スルモノナリ政府ハ宜シク財
政窮乏ノ實情ニ即シ人口標準ヲ撤廢シ
市町村ヲ通シテ交付スヘシ此ノ點ニ關

得ヘシ仍テ國庫ノ補助助成等ニ依リテ

行フ縣、市町村ノ事業ニ就テハ特ニ他
地方ト異リタル高率ナル補助助成ヲ爲

ササレハ獨リ事業ノ促進ヲ期シ難キノ
ミナラス地方債ノ過重ヲ來ス虞アリ故

ニ右補助助成ヲ他地方ヨリ高率タラシ
ムヘキコトハ東北振興調査會ノ答申セ

ル所ナリ然ルニ之カ實行ハ極メテ小範
圍ニ止マリ諸種ノ法律、豫算ニ何等ノ
考慮ヲ加ヘサルハ如何ナル理由ナルカ
政府ノ所見ヲ問フ

得ヘシ仍テ國庫ノ補助助成等ニ依リテ

行フ縣、市町村ノ事業ニ就テハ特ニ他
地方ト異リタル高率ナル補助助成ヲ爲

ササレハ獨リ事業ノ促進ヲ期シ難キノ
ミナラス地方債ノ過重ヲ來ス虞アリ故

ニ右補助助成ヲ他地方ヨリ高率タラシ
ムヘキコトハ東北振興調査會ノ答申セ

ル所ナリ然ルニ之カ實行ハ極メテ小範
圍ニ止マリ諸種ノ法律、豫算ニ何等ノ
考慮ヲ加ヘサルハ如何ナル理由ナルカ
政府ノ所見ヲ問フ

得ヘシ仍テ國庫ノ補助助成等ニ依リテ

行フ縣、市町村ノ事業ニ就テハ特ニ他
地方ト異リタル高率ナル補助助成ヲ爲

ササレハ獨リ事業ノ促進ヲ期シ難キノ
ミナラス地方債ノ過重ヲ來ス虞アリ故

ニ右補助助成ヲ他地方ヨリ高率タラシ
ムヘキコトハ東北振興調査會ノ答申セ

ル所ナリ然ルニ之カ實行ハ極メテ小範
圍ニ止マリ諸種ノ法律、豫算ニ何等ノ
考慮ヲ加ヘサルハ如何ナル理由ナルカ
政府ノ所見ヲ問フ

得ヘシ仍テ國庫ノ補助助成等ニ依リテ

行フ縣、市町村ノ事業ニ就テハ特ニ他
地方ト異リタル高率ナル補助助成ヲ爲

ササレハ獨リ事業ノ促進ヲ期シ難キノ
ミナラス地方債ノ過重ヲ來ス虞アリ故

ニ右補助助成ヲ他地方ヨリ高率タラシ
ムヘキコトハ東北振興調査會ノ答申セ

ル所ナリ然ルニ之カ實行ハ極メテ小範
圍ニ止マリ諸種ノ法律、豫算ニ何等ノ
考慮ヲ加ヘサルハ如何ナル理由ナルカ
政府ノ所見ヲ問フ

得ヘシ仍テ國庫ノ補助助成等ニ依リテ

行フ縣、市町村ノ事業ニ就テハ特ニ他
地方ト異リタル高率ナル補助助成ヲ爲

ササレハ獨リ事業ノ促進ヲ期シ難キノ
ミナラス地方債ノ過重ヲ來ス虞アリ故

ニ右補助助成ヲ他地方ヨリ高率タラシ
ムヘキコトハ東北振興調査會ノ答申セ

ル所ナリ然ルニ之カ實行ハ極メテ小範
圍ニ止マリ諸種ノ法律、豫算ニ何等ノ
考慮ヲ加ヘサルハ如何ナル理由ナルカ
政府ノ所見ヲ問フ

此ノ點ニ關スル政府ノ所見如何

七 馬產ハ東北地方ノ一特異性ナリト雖

モ軍馬ノ購買價格ハ其ノ生產費ヲ償ハ

ス是レ馬產地方窺乏ノ一原因ヲ爲スハ

争ヒ難キ事實ナリ政府ハ宜シク軍馬育

成ノ生產費ヲ調查シ育成者ヲシテ奮テ

馬產ニ精進セシムルヤウ適正ナル價格

ヲ以テ買上クルノ方途ヲ講スヘキモノ

ト認ム此ノ點ニ關スル政府ノ所見如何

八 東北地方ノ太平洋岸ニ於ケル漁業ハ

遠洋、遠海漁業ニ進展セシムルニアラ

サレハ漁民其ノ生ニ安ンシ難キ實情ニ

在リ之カ保護獎勵ニ關シ政府ハ具體的

ナル計畫ヲ樹立スルノ必要アリト認ム

政府ノ所見如何

九 臨時地方財政調整交付金支出額昭和

十三年度一億圓ニ對シ更ニ五千万圓ヲ

下サル程度ニ於テ増額スベシトノ衆議

院ノ要望ニ對シ政府ハ目下考慮中ナリ

トスルモノアリ即チ近時東北興業株式會

社ト民間會社ト協力シテ「バルブ」工場ヲ

東北地方ニ創立セムトスルノ議アリト聞

ク「バルブ」增産ハ國策ノ一タルノミナラ

ス之カ工場設置地方ニ在リテハ勞力、物資

ノ供給、生産物資ノ運送等ノ振興ニ資スル

コト多ク本員ノ最モ喜フ所ナリト雖モ他

面ヲ考察スレハ「バルブ」原料タル木材
ノ伐採ニ依リ或ハ治山、治水ニ大影響ヲ
及ホシ沿岸ニ在リテハ漁業ニモ關係ヲ及
ホスヘキヲ惧ル若シ夫レ「バルブ」製造會
社ハ營利會社タルノ立場ヨリ山林所有者
ノ窮乏ヲ利用シ山林ノ濫伐ノ弊ニ陥ラム
カ其ノ害タルヤ想察スルニ餘りアリ加之
國有林ノ濫伐之ニ伴ハムカ治水、治山、
漁業ニ甚大ナル惡影響ヲ及スモノアラム
「バルブ」工場設置地方ハ其ノ利スル所ニ
顧ミ或ハ忍フ所アルヘシト雖モ然ラサル

地方ニ在リテハ怨嗟ノ聲囂然タルモノア
ラム一利ヲ興スハ一害ノ之ニ伴フコトア
ルヘキハ已ムナシトスルモ政府ハ右會社
ノ設立ヲ許可シ之カ事業ヲ遂行スル點ニ
關シ東北地方ノ治山、治水、漁業保護等
ニ周到ナル調査ヲ遂ケ萬遺策ナキヲ期シ
ツツアリヤ會社ノ事業計畫、工場設置地
方、「バルブ」原料伐採量郡別(國有、民有
別)ヲ明瞭ニシ治水トノ關係ヲモ明確ニ
セラレムコトヲ望ム

右及質問候也

右質問ニ對シテハ書面ヲ以テ答辯アラ
ムコトヲ望ム

昭和十三年三月二十二日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿

衆議院議員田子一民君提出東北地方振興
ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員小山松壽殿
内閣總理大臣 公爵近衛 文麿

昭和十三年三月二十二日

衆議院議員田子一民君提出東北地方振興
ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員田子一民君提出東北地方振興
ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

政府ニ於テハ東北振興調査會ヨリ答申セ
ラレタル東北振興第一期綜合計畫ノ趣旨
ヲ尊重シ速ニ之ヲ實行ニ移スベク努力シ
ツツアルモ未だ十分ノ成果ヲ挙ゲ得ザル
ハ遺憾トスルトコロナリ、東北振興ヲ重
要國策ノ一トシテ採リ上ガ之ガ達成ニ重
力スルハ政府ノ變ラザル方針ナリ

二 東北廳ノ設置ニ關スル件
東北廳ノ設置ニ關スル件

東北地方振興方策ノ圓滑ニシテ徹底セル
實施ヲ期スル爲ニ東北廳ヲ設置スルコト
ニ付ギテハ嚮ニ東北振興調査會ノ答申モ
有之企畫院ニ於テ篤ト研究ヲ遂ゲタル上
關係各廳ト協議ヲ爲ス豫定ナリ

三 東北地方ニ於ケル縣市町村事業ニ對
スル國庫ノ補助助成ニ關スル件

國庫ノ補助助成等ニヨリテ行フ縣市町村
ノ事業ニ對シ特ニ他地方ト異ナリタル高
率ナル補助助成ヲ爲スベキコトハ其ノ必
要ヲ認メラルモ諸種ノ法律、勅令等ニ
規定サルモノニ付テハ相當考究ヲ要ス
ル點尠カラズ、政府ハ將來出來得ルダケ
其ノ趣旨ヲ尊重シテ東北振興ノ目的ヲ達
成セントス

四 災害土木費縣債利子全額國庫補助ニ
關スル件

災害土木費縣債利子全額國庫補助ニ
關スル件

軍馬ノ購買價格ハ馬匹ノ資格ニ基キ更ニ
生產育成費竝ニ市況ヲ斟酌ノ上決定ヲナ
スモノニシテ之カ引上ニ關シテハ可能ノ
範圍ニ於テ十分考慮シツツアリ

七 軍馬購買價格ニ關スル件

軍馬ノ購買價格ハ馬匹ノ資格ニ基キ更ニ
生產育成費竝ニ市況ヲ斟酌ノ上決定ヲナ
スモノニシテ之カ引上ニ關シテハ可能ノ
範圍ニ於テ十分考慮シツツアリ

八 東北地方太平洋沿岸ニ於ケル漁業ハ寒暖
護獎勵ニ關スル件

東北地方太平洋沿岸ニ於ケル漁業ハ寒暖
兩海流ノ消長ニ依リ漁業ノ種類ニ依リテ
ハ時ニ甚シキ凶漁ヲ現出スルコトアリ、
依テ該地方ノ漁業ニ付テハ海況ノ變化ニ
留意シ漁況ニ順應スル多角的漁營ヲ爲サ
シムルト共ニ一面遠洋漁業ノ進展ヲ圖ル
コト最モ肝要ナリ、之ガ爲政府ニ於テハ
從來ヨリ海洋調査ヲ行ヒ海況ノ變異ニ伴
フ漁況ノ變化ノ豫知ニ努ムルト共ニ遠洋
漁業獎勵費ノ運用等ニ依リ銳意漁業ノ發
展策ヲ講ジツ、アルガ、今後猶一層同地
方ノ漁業殊ニ遠洋漁業ニ關スル指導獎勵
ニ力ヲ用ヒ以テ漁業者ノ生活ノ安定ヲ圖
ラントス

年度ヨリ施行シ之ニ伴フ地方事業トシテ
十三年度ニ三〇、〇〇〇圓ノ移住助成金
ヲ計上シ、十四年度以降三ヶ年ニ瓦ル豫
算外契約トシテ二六四、五七〇圓ノ開墾
助成金ヲ計上スル等東北振興ノ爲ニ相當
農耕地擴張ヲ爲ス計畫ナリ

右ノ外自作農耕地開發事業並ニ農產資源
開發ノ爲ニスル開墾助成ニ關スル件

農耕地擴張ヲ爲ス計畫ナリ

ニシテ東北地方ニ分配セラルモノモ尠
ラズ、政府ハ東北地方ノ農民ニ耕地ヲ得
セシムルガ爲相當考慮シ居レリ

七 軍馬購買價格ニ關スル件

軍馬ノ購買價格ハ馬匹ノ資格ニ基キ更ニ
生產育成費竝ニ市況ヲ斟酌ノ上決定ヲナ
スモノニシテ之カ引上ニ關シテハ可能ノ
範圍ニ於テ十分考慮シツツアリ

八 東北振興「バルブ」會社ニ關スル件

東北振興「バルブ」會社ニ關スル件

九 臨時地方財政補給金ノ交付ニ關スル
件

明年度ニ於ケル臨時地方財政補給金ノ交
付ニ付テハ目下慎重考究中ナリ

十 東北地方ノ「バルブ」事業ニ關スル件

ヨリ昭和十四年度以降毎年約四十万石ノ
濶葉樹材ヲ供給スル計畫ナルモ國有林ノ
經營ハ確固タル施業案ニ準據シテ行ハル
ルモノナルヲ以テ固ヨリ濫伐等ノ虞無シ、
而シテ國有林資材ヲ以テ不足スル分ハ民
有林ノ資源ニ之ヲ需メザルベカラザルモ
政府ハ民有林ノ現況ニ鑑ミ過伐ニ陥ラザ
ル様其ノ施業ヲ充分監督指導シ治山治水
其ノ他產業保護上遺憾ナキヲ期セントス、
尙東北振興「バルブ」會社ノ工場設置地方
ハ宮城縣、秋田縣ニシテ郡別原木伐採量
ハ未定ナリ

右及答辯候也

昭和十三年三月二十二日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
内務大臣 末次 信正
農林大臣 伯爵有馬 賴寧
鐵道大臣 中島知久平

東京市小河内貯水池ニ關スル質問主意
書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十三年三月十日

提出者 大野 伴睦

東京市小河内貯水池ニ關スル質問主
意書

一 東京市小河内貯水池帶住民ノ問題ハ

單ニ東京府下ニ於ケル一寒村ノ死活ニ

關スルモノトシテ社會ハ之ヲ輕視シ國

家ハ何等救濟ヲ爲サシテ然ルヘキヤ

政府ノ所見如何

本問題ハ單ナル地方的小小事件トシテ

輕視スヘキモノニアラス凡ソ文化施設

ノ擴充ヲ來スニ至レハ東京市ノ如キ大

都市ノミナラス小都市トシテモ都市的

形態ヲ形造スル都會ノ要式ハ必スヤ水

道施設ノ完備ヲ要求スルヤ當然ナリ隨

テ大小ノ差ハアレ必ス貯水池ノ築設ヲ

圖ルモ亦必至ノ努力ト謂ハサルヘカラ

ス此ノ必至ノ努力ハ或ハ何等人畜ニ被

害ヲ蒙ラシメス或ハ一村立退キノ如キ

犠牲ヲ拂ハシメストモ「ブル」ノ完備

ヲ以テ之ヲ成シ得ヘシ併シナカラ此ノ

問題ニ關聯シテ多クハ山村奥郷ノ一村

ハ大部分又ハ少クトモ其ノ一小部分ヲ

水底ニ没スルノ機會ヲ生セシムルニ至

爲リ國內相剋ヲ激化セシムルノ憂十分

ニアリ當局ハ斯ル企業ヲ樹ツルノ計畫

ニ付市町村ニ對シ何等不安ナキ方針用

意アリヤ

二 昨年東京市參事會ハ小河内村住民ノ財產其ノ他ノ買收豫算案ヲ可決シ其ノ第三期買收豫算案モ昭和十二年夏全部可決スルト同時ニ買收ニ付左ノ希望條件ヲ附シタリ

希望條件

本件ニ就テハ第一次買收案ノ際附

セラレタル意見ヲ相當ト認メ尙ホ

左ノ意見ヲ加フ

本件ハ努メテ急速ニ進捗セシムル

コトヲ目標トスルト同時ニ公企業ニ鑑ミ公私生活ニ損害ヲ加ヘサル

様其ノ施行ニ際シテハ理事者ニ於

テ溫情ヲ以テ充分配慮セラレンコトヲ望ム（昭和十二年六月二十二日市參事會）

トアリ然ルニ市當局ハ荏苒日ヲ闊シ買收行爲頗ル緩慢ナルト同時ニ徒ニ一小部分ニ對シテ交渉シ村全體ニ對スル交渉ヲ爲ササルハ如何或者ニハ交渉シ或者ニハ交渉ヲ避クルカ如キハ公明ナル交渉方式ナリヤ少クトモ一村全滅ノ場合ニハ村政ノ主腦或ハ其ノ代表者ヲ相手方トシテ交渉スルカ當然ナリスル交渉形態ナルヲ以テ村民ノ前途ノ計畫全ク當局ノ行動ニ對シ監督權ヲ發動スルノ意ナキカ

（一）東京市ノ貯水池築設問題發生シタルハ昭和六年夏ニシテ小河内村ニ

對シテ一村ヲ犠牲ト爲シ東京市ノ買收ニ應スルヤ否ヤノ東京府ノ第一回

諸問アリタルハ昭和七年十月末、其ノ二十八日ニ小河内村ハ一村犠牲ヲ決議シ此ノ旨府ニ答申シタリ此ノ時

小河内村長小澤市平等ハ當時ノ東京市ノ原水道局長小野擴張課長等ヨリ

「移轉補償費ハ一箇年經テバ拂渡ス

カラ學校道路ノ修築、開設、烟、山林ノ開發等萬般ノ問題ニ對シ小河内村更生ニ要スル諸方式ハ援助スペキ

ヲ以テ移轉地ヲ物色決定シ將來安心シテ行クコトノ出來ルヤウ行ハレタ

イ一箇年經テバ必ズ補償費ハ渡シテヤル云々」ト言明シタルニ其ノ實行

行爲モ無ク而モ當時ノ堰堤位置ハ岩質危険ナルヲ以テ其ノ位置ヲ水根澤（現地位）ニ變更セシメタリ此ノ時モ

村民ニ將來ノ安心ヲ與ヘテ水根澤變

不履行トナリ八年以來九、十ノ三箇年ノ如キハ村民施スノ策ナク塗炭ノ苦ヲ嘗メタリ耕作損害、交通

損害、金融上ノ損害、植林上ノ損害等ハ適當ニ計上支拂ハルヘキナ

ヲ爲サシメタリ此ノ東京市水道當局

會問題ナリ此ノ問題ハ行政上ノ大問題ニシテ波及スル所又甚大ナリ政府ノ明快ナル答辯ヲ要求ス

認スルモノナリヤ明確ナル答辯ヲ要求ス

東京市民ノ利益ハ主要ニシテ一寒村ノ死活ハ放任シテ可ナリヤ當局ノ所見如何

何

（二）東京市ノ貯水池築設問題發生シタルハ昭和六年夏ニシテ小河内村ニ

對シテ一村ヲ犠牲ト爲シ東京市ノ買收ニ應スルヤ否ヤノ東京府ノ第一回

諸問アリタルハ昭和七年十月末、其ノ二十八日ニ小河内村ハ一村犠牲ヲ決議シ此ノ旨府ニ答申シタリ此ノ時

小河内村長小澤市平等ハ當時ノ東京市ノ原水道局長小野擴張課長等ヨリ

「移轉補償費ハ一箇年經テバ拂渡ス

カラ學校道路ノ修築、開設、烟、山林ノ開發等萬般ノ問題ニ對シ小河内村更生ニ要スル諸方式ハ援助スペキ

ヲ以テ移轉地ヲ物色決定シ將來安心シテ行クコトノ出來ルヤウ行ハレタ

イ 告知書（昭和七年十月答申後翌八年末ニ付）

法律上ノ疑義ナキヤ政府ノ所見如何

土地收用法ニ基キ國家權力ノ發動シテ

收用地帶ヲ收用スルコトハ疑義ナシト

雖モ公法人タル東京市カ公法人タル小河内村ヲ買收スルコトハ果シテ法律上

一點ノ疑義サヘ容ルノ餘地ナキヤ

更ニ異議ナキヤノ諮詢ニ對スル答申

ヲ爲サシメタリ此ノ東京市水道當局

ノ言明ハ村長並村主腦ニ於テ深ク承認之ヲ確信シタルモノナリ苟モ大東京市ノ幹部ニアル人士カ夢偽リアル

ヘカラスト信スルハ當然ナリ而モ大

君ノ都ノ使用水ト爲ルコトノ光榮ニ

サレサルナリ然レトモ移轉補償費ノ支拂ハ簡単ニ爲シ得ラレサル

モノニシテ少クトモ東京市ノ實情ヲ知ル者ニ於テハ絕對ニ斯ル輕卒ノ言辭ヲ公言スヘキニアラサルナリ

市當局ハ始ヨリ故意ニ村民ヲ欺キ而モ尙ホ諄朴ノ村民ヲ欺瞞シテ恬トシテ恥サルナリ公人ノ言動トシテ斷シテ許スヘカラス人アリ「市吏員ノ或

者ハ馬賊ニ等シ」ト東京市ノ歴史カ悉ク疑獄ニ穢レテ公正、澄明ノ士ハ是ヲ入レスト爲ス又故アル哉ト謂フ

テキナリ餘言ハ別トシテ村民ヲ欺ケル第一ノモノハ前述ノ問題ニシテ斯

クシテ小河内村民ハ東京市ヲ信賴シテ前後八年間甚大ナル損害ヲ蒙リ來タリ即チ

イ 告知書（昭和七年十月答申後翌八年末ニ付）

ハ補償費ヲ支拂フヘシトノ約束ハ

簡年ノ如キハ村民施スノ策ナク塗

炭ノ苦ヲ嘗メタリ耕作損害、交通

損害、金融上ノ損害、植林上ノ損害

等ハ適當ニ計上支拂ハルヘキナ

リ東京市ハ此ノ損害ヲ村民自身ノ

「オ前ノ所ハコチヲノ方デ都合ガアルカラ其ノ土地家屋ハ棄テ他國ニ旅ヲシロ併シ多少ノ金ハ今後一年内ニ遣ルト謂フ話ニ對シ立退クコトハ御上ノ仕事ト我慢シテ出ルコトニシタガ凡ソ住ミ慣レタ土地ヲ棄テ先祖墳墓ノ土地ヲ見捨テ他國ニ走ルト謂フコトハ日本國民トシテ實ニ重大ナル問題デアル輕々ニ考ヘテハナラナイコトデアル又簡単ニ出來ルコトデナイ夫レモ之レモ社會公共ノ爲ダト考ヘテヤツテ其ノ準備ヲシタガ多年ノ土地故郷ヲ棄テルノデアル容易ニ立退ケルモノデナイ其ノ準備ヤ前後ノ始末ハ貧乏な村民ダカラナンデモ無イト高ヲ括ルコトハ實ニ奇怪ナ話デアル此ノ村民ハ工事ガ進マヌカラ仕事モ手ニツカズ移轉地モ無イ實ニ千代萩ノ言葉デハナイガ幾年待ツテモ誠意アル方法ヲトッテ吳レナイ」ト空腹ニ耐ヘ苦勞ニ呻吟セル村民ヲ「ソレハ運命ノ一ツダ」ト市當局ハ謂フ斯ノ如キ不當ナル話カ何處ニアルカ之ヲ國家ハト謂ヒ小河内貯水池ノ建設可能ナ見殺シニスヘキヤ

リヤ不可能ナリヤ豫測ノツカサル
以前ヨリ二百三十萬圓ト謂フ大金
ト毎年夏山口、村山貯水池ノ三分
ノ二ノ水ヲ給スルコトヲ約束シタ
リ一方「御前達ハ國家ノ爲淘ニ奇
特ノ至リダ」トシテ空世辭ハ亂發
シタカ散々損害ヲ蒙ラシメ滅茶滅
茶ニ五百戸三千村民ノ生活ヲ窮迫
ノドン底ニ陥シ込ミ一錢ノ損害モ
拂ハス剩ヘ罪人ヲ追放スルカ如キ
仕打ナリ無情ト謂フカ冷酷ト謂フ
カ謂ヒヤウナキ仕打ト謂フヘシ監
督官廳カスルル行動ニ對シ何等カノ
方法ヲ講スルコトカ自治政ヘノ壓
迫トナルヤ

題ト爲リ棄テ置ケサル輿論ノ聲ト
ナリシ爲市當局ハ損害ノソノ字モ
口ニ漏ラササリシカ次第ニ此ノ言
葉ヲ吐キ昨昭和十二年十月二十七
日ニ西多摩郡冰川村ニ於ケル廣橋
地方課長、鈴木屬、小野小河内貯
水池建設事務所長等ト小河内村民
等トノ懇談會ニ於テ村側ノ損害ノ
要求ニ對シテ「何トカ考ヘル」ト始
メテ言明シ移住地ノ物色ニ付協力
ヲ叫ヘリ而シテ村民ノ移住地物色
ヲ從済シ候補地決定ニ對シテモ
適當ナル處置ヲトル」ト言ヲ明カ
ニセルモ村民カ埼玉縣大里郡本畠
村、小原村兩村五百町歩ヲ其ノ目
的地トシテ發見シ此ノ買收方ヲ交

ニハ買收費ヲ拂フノデアルカラ移
住地ヲ買ツテ與ヘルト謂フ譯ニハ
ユカヌ」ト村ノ交渉ヲ拒絶シ村ハ
「ソレデハ話ガ違フ」ト再交渉スレ
ハ「村ノ集團移住ノ場合ニハ水道
敷設、道路開設等ノ問題ヲ考ヘル
デアラウ」ト捕捉シ得ヘカラサル
ノ目的地ノ圖面ヲ提出セラレタイ」
無責任ノ言ヲ擅ニシ村民ノ追及激
シキニ當リテ結局兎モ角埼玉縣
ト小野所長ヘ言ヲ發スルニ至レリ
之ニ勢ヲ得テ村民ハ圖面ヲ小野所
長ニ提出スルト同時ニ越エテ十二
月十五日建設事務所ニ於テ同所長
ニ再交渉ヲ爲ス此ノ時所長ハ「建
設事務所ハ埼玉縣廳農林省ニ種々
打合交渉中デアル而シテ其ノ案ノ
作成中デアルカラ案ノ出來ニ從
ヒ之ヲ村民諸君ニ内示シテ本月未
ノ市會ニ提案スルデアラウ」ト明
瞭ナル解答ヲ與ヘ村民ハ小野所長
ノ此ノ解答ニ雀躍リシテ「村民ノ將
來此處ニ開ケリ」ト喜ヒタルモ是レ
所謂糠喜ニ過キサリキ即チ建設事
務所ニ於テハ何等移住地ニ關スル
交渉モセス隨テ何等之ニ關スル誠
意アル市ノ報告ナク嘘偽リ「口カ
ラ出任セ」ノ答辯ヲ爲シテ村民ヲ
誘弄シタルモノナリ此ノ不當ニ村
民ハ極度ニ激昂シ本年一月十二日
村長、岡部村議等ハ小野所長ニ市

「確ニ埼玉縣廳農林省ニモ移住地問題ノ進行ヲ依頼セリト謂フガ然ラバ貴事務所員果シテ農林當局、埼玉縣ニ交渉シ何人ガ何日ニ出向ケルヤ村民代表ノ我等トシテハ不明瞭ナル報告ヲ爲シ難シ」ト詰寄り農林當局ハ何人ガ對談ノ相手トナリタルヤ此ノ點モ明確ニスペシ」ト交渉ヲ爲シタルニ所長ハ「イヤ實ハコレカラ書面ヲ出スノデアル」下答ヘタリレ實ニ一點ノ誠意ナク徹頭徹尾村ヲ設事務所ニ於テ書面ヲ埼玉縣ニ本日發送スルトセハ「我等モ出カケテ交渉スベシ」ト小野所長ニ告ケ引舉表ハ此ノ言ニ憤激ヲ極メタルモ建業建設事務所ヨリハ慥カニ移住地ト面接前述ノ小野所長トノ間答ヲ基準トシテ質問應答ヲ重ネタリテハ澤本泰造、岡部爲三、酒井義春ノ三村議埼玉縣廳ニ重政耕地課長ハドウニモ出來ナイ」村議「ソレナラ如何ニ圖へバ宜イカ」

耕地課長「費用モ要ルコトダカラ費用支出ノ道ガ定マラヌト駄目ダ」

村議「然ラバ費用ノ點ハ改メテ相談スルコトニスル」ト埼玉縣廳ヲ引舉クスル狀態ニテ市當局ノ言明

ハ悉々眞實ヲ缺キ村民ヲ愚弄シテ而モ恥トセサルモノナリ
小河内貯水池問題發生シテ村民ニ將來ノ安住ヲ與フヘク誓約シタル市當局ハ既ニ八年間トナル今日未タ詐欺、權謀ヲ擅ニシテ村民ノ方途ヲ混迷ナラシメ既ニ土地賣却ノ村民二百戸ニ及フモ移転先ニ困難ヲ來シ難澁シ居ル狀態是レ果シテ公共事業ヲ企畫スル者ノ道徳ナリヤ

(二) 東京市ノ行動ハ合理的ニ反社會的行爲ヲ爲シツツアリ即チ天人共ニ許スヘカラサル公共ノ特權ニ於テスル罪惡ヲ爲シツツアリ

一寒村ナリト雖モ

陛下ノ赤子ハ國運

隆昌ノ爲ニ翼賛スルノ光榮ヲ有シ此ノ光榮ノ下ニ一千數百年ノ歴史ノ地ヲ棄テ犠牲ノ精神ヲ發揮シ新ニ強ク生キムト覺悟シタルモノナリ此ノ誠心誠意、犠牲奉公ノ村民ノ利益ニ援用シ財的、心的ノ勝利ヲ舉ケムトスルモノナリ實ニ憎ムヘキ行動ナリ村民カ山村ヲ住家トシテ都會ノ暴逆ヲ知ラス心一筋帝都ノ犠牲ノミヲ考ヘタルニ之ヲ利用シテ利益ヲ得ムトスルハ人非人ノ行動ニ非スシテ何ゾ嘗テ神奈川縣二ヶ領組合問題ノ悪化シテ小河内貯水池問題ノ停頓已ムナキニ至レルヤ小野所長ハ或ハ其ノ代案トシテ富士山麓狩野川ノ水流或ハ埼玉縣見沼ノ用水利用策ヲ講

シ八方奔走シタリ此ノ間小河内村民ニハ内面的苦悶ノ蓄積ヲ見ル此ノ蓄積ク山村人ノ不運ニ對シ「勝手ニサラセ」ノ態度ヲ以テ君臨シ來レリ暴慢ノ極之カ市當局幹部ノ行動ナリトス恐シキ迄ニ無禮ナル此ノ種市吏員ノ行動タルヤ言語ニ絶ス死線上ニ村民一同ヲ彷徨セシメテ事進マスト爲ルヤ我不關焉ノ態度トナル此ノ無情冷酷斷乎トシテ村民ナラストモ憤ルモノナルヤ論無キナリ國家ノ非常時國民精神總動員提唱ノ最中斯ル極惡非道力公廳ノ主腦ニ於テ平然ト口ニセラルルヲ社會ハ至當ナリトルカ帝都ハ國家ノ首都ニシテ自治ノ本體タルヲ以テ事ハ全國市町村ノ爲ニ考慮スヘキナリ然ルニ政府ハ之ニ援助ヲ爲サムトスルカ國家ノ現狀ニ鑑ミテ由々シキ大問題、一片ノ驅引辭トシテ容認シ得ラレサル國民道徳ニ闕スル大問題ナリトス政府ノ所見如何

五 一村カ亡滅スルニ際シ之ニ對スル同

情ヲ爲スコトハ不當ナル處置ナリヤ

小河内村民ニ對シテ果シテ正當ナル補償處置ハトラレツツアリヤ政府ハ嚴重ナル監督調査ヲ爲ス意思ナキカ

小河内村民ハ一千數百年ノ傳統ヲ矜持スル村民ナリ山岳中ニ住家ヲ開キ拓

キテ山ノ生活ヲ營ミ來タリ此ノ山村ノ生活ニハ一坪ノ畠ニモ、一坪ノ庭ニモ、

リ知ラサル苦澀難儀ヲ爲シ生活ヲ開

始スルニ至レルモノナリ此ノ村ノ生成ニハ内面的苦悶ノ蓄積ヲ見ル此ノ蓄積ハ小河内村ニ特別ナル財産ヲ形成シ賣買讓渡ニハ格別ノ評價ヲ見ルヲ普通トス此ノ格別ニ評價スヘキ小河内ノ土地、家屋或ハ田、畠、宅地、寺社、墓地ニ對シテ何等此ノ内容的調査ヲ爲サス平凡ナル一率ノ評價ヲ以テシクリ而モ公言ニ曰ク「頗ル同情アル高額ノ評價ナリ」ト右ノ不當評價ヲ政府ハ如何ニ見ルヤ亂暴極マル評價ノ一例ヲ左ニ示サム國家ノ首都ニシテ自治ノ本體タルヲ以テ事ハ全國市町村ノ爲ニ考慮スヘキナリ然ルニ政府ハ之ニ援助ヲ爲サムトスルカ國家ノ現狀ニ鑑ミテ由々シキ大問題、一片ノ驅引辭トシテ容認シ得ラレサル國民道徳ニ闕スル大問題ナリトス政府ノ所見如何

シテ材木商ニ賣捌キタリ村民中神田忠次郎所有ノ立木一圓二十錢ノモノヲ市吏員ハ三十六錢ニ評價シタルハ其ノ一例ナリ調査ノ不徹底亂暴ナルモノト謂フベシ村民杉田庄吉ノ山林立木數ヲ市吏員ハ八千本ト調査シタリ然ルニ杉田本人ノ調査ニ依レハ一萬四千六百本ヲ數フ市ト比較シテ其ノ倍數ナリ市ハ此ノ不當調査ノ抗議ニ狼狽シテ直ニ市ハ自ラノ不當ヲ陳謝シ杉田本人ニ對シ一萬四千六百本ヲ承認其ノ對價賠償ヲ爲シタリ其ノ他各方面ニ瓦爾調査、補償ハ杜撰ヲ極メタリ政府ハ斯ル東京市ノ行動ヲ適當ナリト是認シ得フルルカ

七 市當局ノ不誠意ハ前述ノ如クニシテ此ノ背信行爲ヲ曝露スルニ至ラハ同胞舉ケテ憤激スヘキヲ信セラル一村ノ死活ハ世ニ類ナシ一村ノ更生ハ之ヲ犠牲トスルモノニ於テ特別ノ好意ノ下ニ保護、援助ヲ爲スヘキナリ東京市カ自家ニ必要ナル供給水ヲ引用スル場合ニ此ノ事業ノ犠牲トナル一村ノ更生ヲ考慮シ歴史アル神社、佛閣ヲ保存シ敬神崇祖ノ國民的信仰觀念ニ微動タモ無キヲ期スルハ公共企畫事業ニ附帶スル重要な問題ナリ敢テ本問題ニ對スル政府ノ所見ヲ問フ

要スルニ小河内問題カ今日マテ進行セス放任セラレタルハ實ニ二ヶ領用水組合ノ抗議カ最大ノ原因ヲ爲スモ一ハ東京市當局ノ誠意ヲ缺キ感激ヲ缺キ五百戸三千人

帝都近クニ住スルヲ光榮トシ其ノ使用水ノ犠牲トナルニ感激シテ唯單ニ平和裡、談笑裡ニ一切ノ解決ヲ爲シ喜ヒ勇ミ第二ノ村ヲ造ラムト質朴純眞ノ信念ニ燃エツツアルニ却テ村民ヲ翻弄シテ思想ヲ悪化セシメツツアリ村民一同ノ激憤ハ容易ナラサルモノアリ或時ヘ一村舉ケテ大舉上京シ世ニ、市當局ニ無情ヲ訴ヘムトシ或時ハ決死悲壯ノ精神ノ下ニ行脚シテ村民ノ衷情ヲ披瀝セムトシ動モスレハ激情ノ餘り暴動的行動ニ出テムトシタルコトハ既ニ一再ニアラス唯冷靜ナル指導者カ道ヲ説イテ激越ナル村民ノ感情ヲ融和シ來レルナリ而モ市當局ハ笑ツテ村民ノ苦惱ヲ冷視ス氣裡ニ内訌スレハ暴動起ル此ノ徵コソ爲政者ノ最モ關心スヘキ重大問題ニシテ別言スレハ小河内問題ノ解決ハニシニ帝都六百萬市民ノ康寧ヲ圖ルノ道ニシテ又他面全國ニ君臨スル自治政謳歌ノ炳乎タル目標タルヘシ

ナリは市主腦部ノ意思ニアラストスル
モ帝都下ニ於テ日晝斯ル權謀カ横行シ得
ルハ由々シキ大問題ナリ人權ノ蹂躪トモ
ナルモノニシテ棄テ置クヘキニアラス且
ツ小河内出身支那事變ノ勇士モ望郷ノ夢
ニ故山ノ姿何處ニアリヤト寒夜窮ニ涙ク
ムトモ聞ク銃後ノ護リニ於テ間然スヘカ
ラサル今日市吏員ノ行動ハ憎ミテモノ餘リ
アリ政府ハ嚴重ニシテ公明ノ處置ヲトラ
ルルヤウ重ネテ冀望スルモノナリ

今後ノ買收措置ニ付遺憾ナキヲ期セシ
メントス
第三ニ關シテ
第四ニ關シテ
イ、事實ニ基キ當然支拂フベキモノア
ルトキヘ適當ナル措置ヲ講ゼシメントス
ロ、村民ノ移住地問題ニ付テハ目下府
市當局ニ於テ篤ト考慮中ナルモ此ノ
點一層ノ留意ヲ促シ遺憾ナキヲ期セ
シメントス
第五ニ關シテ
用地買收及地上物權移轉補償料等ニ關
シテハ關係者ニ於テ種々研究シ其ノ適
正ヲ期シツツアルベシト思料セラル
モ尙實狀調査ノ上適當措置セントス
第六ニ關シテ
本事業ノ實施ニ付テハ固ヨリ地元住民
ノ理解ト協力ヲ期シ其ノ圓滿ナル進捗
ヲ期シ得ベキトコロナルニ從來動モス
レバ其ノ間圓滑ヲ缺キタルヤノ嫌アリ
テ其ノ間ニ於テ市村兩當局ノ努力十分
ナラザルモノアルヤニ思料セラル尙今
後遺憾ナカラシメントス
第七ニ關シテ
小河内村ノ移住民殘存民ニ對シ財產上
所定ノ補償ヲ爲サシムルヘ勿論ノコト
ナルモ其ノ他民情ニ即シ可及の尙慰

右爲出來得ル丈ケ適當ノ方法ヲ講ズル
コトハ固ヨリ必要ト思料セラル
及答辯候也

本義如何		三、現行宗教ニ甲乙ナシト認ム
二、宗教ノ本質如何		四、新宗教ハ今後起り得ルモノト思料ス
三、宗教ノ本質上現行宗教ニ甲乙ナキヤ		(六)國教ヲ選定スル意思ナシ
四、今後尙ホ新タル宗教ハ起り得ルヤ		七、宗教ニ關スル審議會設置ニ於テハ目
五、國教ヲ選定スル意思ナキヤ		八、本件ニ付テハ政府ニ於テ宗教團體法
六、國教ノ選定ハ憲法第二十八條ニ抵觸		九、制定ト關聯シ慎重ニ考慮シツ、アリ
スト思惟セラルルヤ		ニ於テ緊密ナル聯繫ヲ保チ嚴重之ガ取
七、各宗各派ノ大德、碩學ヲ網羅シ宗教		締ヲナサントス
ノ本質ニ關シ審議會ヲ設クルノ意思ナ		八、政府ハ親政輔弼ノ大任上右諸問題ニ
キヤ		付且ツ之ニ關聯スル事項ニ付特ニ考慮
八、政府ハ親政輔弼ノ大任上右諸問題ニ		スルノ責務ヲ感ゼアルヤ
付且ツ之ニ關聯スル事項ニ付特ニ考慮		九、淫祠邪教取締ニ關スル根本方針如何
スルノ責務ヲ感ゼアルヤ		右及答辯候也
九、淫祠邪教取締ニ關スル根本方針如何		昭和十三年三月二十二日
右及質問候也		内務大臣　末次　信正
昭和十三年三月二十二日		文部大臣　侯爵木戸　幸一
内閣總理大臣　公爵近衛　文麿		(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲
衆議院議長小山松壽殿		茲ニ掲載ス)
衆議院議員會和義式君提出宗教ニ關スル		一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
質問ニ對シ別紙答辯書差進候		(第三號)昭和十三年度歲入歲出總豫算追
(別紙)		加案
衆議院議員會和義式君提出宗教ニ關スル		(特第二號)昭和十三年度各特別會計歲入
質問ニ對シ別紙答辯書差進候		歲出豫算追加案
(別紙)		(追第三號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ
衆議院議員會和義式君提出宗教ニ關スル		契約ヲ爲スヲ要スル件
質問ニ對スル答辯書		昭和十三年法律第六號中改正法律案(昭
和十三年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル		和十二年法律第九十二號中改正法律案
ハ安寧秩序ヲ妨げズ臣民タルノ義務ニ		(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル
反セザル個人ノ信仰ヲ謂フモノト存ゼ		件)(政府提出、貴族院送付)委員
(ラル)		委員長　寺島　權藏君(委員長津原武
二、宗教ハ其ノ醇厚中正ナル教義ヲ以テ		君去十七日委員辭任ニ付其
人ニ安心立命ヲ得シムタル同時ニ國運		(ノ補闕)
ノ伸張ニ寄與スルモノタルヲ本旨トス		一去十九日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル
ト思料ス		一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ
恩給法中改正法律案		如シ
通牒ヲ受領セリ		東京市小河内貯水池築設ニ關スル質問主
一去十九日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル		件)(政府提出、貴族院送付)委員
ノ如シ		昭和十二年法律第九十二號中改正法律案
ノ如シ		(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル
件)(政府提出、貴族院送付)委員		件)(政府提出、貴族院送付)委員

理事 本田彌市郎君（理事寺島權藏君）

去十九日理事辭任ニ付其ノ
補闕）

一去十九日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ
如シ

北支那開發株式會社法案（政府提出）外一
件委員

山道 裏一君 粟山 博君

西田 郁平君 高田 耘平君

堤 康次郎君 前田房之助君

清水徳太郎君 宮澤 肥勇君

村松 久義君 喜多壯一郎君

岡野 龍一君 田村 秀吉君

小林 三郎君 小林房之助君

小高長三郎君 小谷 節夫君

松岡 俊三君 田代 正治君

植原悅二郎君 小笠原三九郎君

田中 好君 伊豆 富人君

高橋圓三郎君 伊豆 富人君

東郷 實君 田中源三郎君

赤松 克麿君 原 物兵衛君

窪井 義道君 長谷 長次君

田原 春次君 前川 正一君

道家齊一郎君 木村 武雄君

分換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ
關スル法律案（政府提出）委員

紫安新九郎君 一柳仲次郎君

勝 正憲君 中島彌團次君

矢野庄太郎君 本田甚四郎君

中川 重春君 本田 義成君

○議長（小山松壽君） 服部崎市君 日程第一ハ後廻シトセラレ

衆議院議長小山松壽殿

小笠原三九郎君 松川 昌藏君 武田徳三郎君

川島正次郎君

○議長（小山松壽君） 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

永田 良吉君 高岡 大輔君 河合 義一君

盛島 明長君 豊田 收君 三木 武夫君

水谷長三郎君 青木 作雄君

藤本 捨助君

高岡 大輔君 河合 義一君

喜多壯一郎君 田村 秀吉君

小林 三郎君 小谷 節夫君

西田 郁平君 高田 耘平君

堤 康次郎君 前田房之助君

清水徳太郎君 宮澤 肥勇君

村松 久義君 喜多壯一郎君

岡野 龍一君 田村 秀吉君

小林 三郎君 小谷 節夫君

西田 郁平君 高田 耘平君

堤 康次郎君 前田房之助君

清水徳太郎君 宮澤 肥勇君

村松 久義君 喜多壯一郎君

岡野 龍一君 田村 秀吉君

小林 三郎君 小谷 節夫君

西田 郁平君 高田 耘平君

堤 康次郎君 前田房之助君

清水徳太郎君 宮澤 肥勇君

村松 久義君 喜多壯一郎君

岡野 龍一君 田村 秀吉君

小林 三郎君 小谷 節夫君

西田 郁平君 高田 耘平君

堤 康次郎君 前田房之助君

清水徳太郎君 宮澤 肥勇君

村松 久義君 喜多壯一郎君

岡野 龍一君 田村 秀吉君

小林 三郎君 小谷 節夫君

西田 郁平君 高田 耘平君

堤 康次郎君 前田房之助君

清水徳太郎君 宮澤 肥勇君

一商法中改正法律施行法案（政府提出）貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十三年三月十九日 委員長 野村 嘉六

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一有限會社法案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十三年三月十九日 委員長 野村 嘉六

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一野村嘉六君 只今上程サレマシタ商法中

改正法律案外二件ノ委員會ノ經過並ニ結果

ヲ御報告致シマス、委員會ハ二月ノ二十

八日カラ十三回開キマシタ、何分商法中

改正法律案外二件デ、改正サレマシタ條

文ハ二百數箇條、新ニ設ケラレマシタ條

文ガ二百十箇條、合セテ四百二十箇條程

ニナル大改正デアルノデアリマス、斯ル

大改正ヲセネバナラヌト云フ政府ノ意見

ハ、現行商法ハ明治三十二年ノ公布並ニ

實施ニ係ルモノデ、當時立法ヲ急イダノデ

不十分デ、アツク爲メ、明治四十四年ニ多少

ノ修正ヲ爲シ、彌縫シ來リマシタ所、其後

世界大戰ヲ經テ、國內ハ勿論、國際的ニ商

事取引ガ非常ニ發達致シマシテ、現行商法

リ可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

商法中改正法律案

第二讀會(確定議)

商法中改正法律施行法案 第二讀會(確定議)

有限會社法案

第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)日程第五乃至第七ハ同一委員ニ付託シタル議案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第五、昭和十二年法律第九十二號中改正法律案、日程第六、商業組合法案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス

寺島 権藏
委員長

第五 昭和十二年法律第九十二號中改正法律案輸出入品等ニ關スル臨時送付)

第六 商業組合法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第七 有價證券業取締法案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 昭和十二年法律第九十二號中改正法律案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十三年三月十九日

新ニ商業組合ノ設立ヲ命スル場合ニ於テハ其ノ地區内ニ在ル他組合ノ實狀及關係ヲ考慮シ特ニ慎重ヲ期スヘシ

報告書

ジ得ルコト等ニアリマス、本法ノ運用如何ハ從來ノ産業經濟ノ實體ニ、相當變化ヲ與ヘルモノニアリマスノデ、改正案ニ付テノミナラズ、本法全般ニ瓦リ其施行ノ狀況、政府ノ方針等ニ付キ、熱心ニ質疑應答ガアツタテアリマス、今其主ナル論點ニ付キマシテ簡単ニ御説明申上げマス、第一ニハ、需給調整協議會ト貿易及ビ關係產業ノ調整ニ關スル法律ノ規定スル統制協議會トノ關係如何ト云フ點ニアリマス、第二ニハ第二條ノ二ニ「前條ノ物品ノ需給ニ關係アル產業」トアルハ、如何ナル意味ヲ有スルモノニアルカ、即チ其範圍如何ト云フ點ニアリマス、第三ニハ、需給調整協議會ヲシテ價格統制ヲ行ハシムル意圖アリヤト云フ點ニアリマス、第四ニハ、本法ニ依ル原料品ノ輸入制限ノ結果輸出減少ノ虞アルガ、之ニ對スル政府ノ輸出振興策如何ト云フ點ニアリマス、第五ニハ、輸出制限ニ付キ大藏、商工兩當局ノ連絡ヲ圖リ、輸入許可ニ關スル事務ノ迅速且ツ圓滑ナル進行ヲ圖ルニ非ザレバ、商機ヲ逸シ、貿易上著シク不利ナル結果ヲ招來スルガ、之ニ對スル政府ノ所見如何ト云フ點ニアリマス、第六ニハ、物資ノ需給均衡ヲ失シタル結果、物價ハ益々騰貴ノ傾向ニアルモ、政府ハ物價騰貴ノ抑制ニ付キ如何ナル措置ヲ講ズル意圖アリヤト云フ點ニアリマス、是等ノ質問ニ對シマシテ政府當局ハ、第一ノ需給調整協議會ト統制協議會トノ關係ニ對シマシテハ、之ヲ構成スル者ノ範圍ニ廣狹ガアリ、統制協議會ハ輸出入業者及ビ官吏ヲ以テ組織セラル、ノデアリマ

ラズ、廣ク關係業者又ハ其團體ヲ以テ之ヲ組織セシムルノデアリ、又前者ノ組織セラレマスノハ、輸出入品ニ限ラレマスノニ對シ、後者ニ於テハ斯ル制限ナク、需給關係ノ調整ヲ必要トスル如何ナル物品ニ付テモ組織セラレルノデアリマス、第二ノ「需給ニ關係アル産業」ノ意味ハ、極メテ廣汎デアリマシテ、當該物品ニ關聯ヲ有スル總テノ事業ヲ含ムノデアリマスガ、需給調整協議會ノ組織ニ際シマシテハ、適當ナル範圍ヲ定メルコトトナルノデアリ、第三點ニ對シマシテハ、需給調整協議會ヲシテ爲サンムベキ決定中ニハ、價格統制ニ關スル事項ヲモ含ムモノデアリマス、第四點ニ對シマシテハ、世界ヲ舉ゲテ自給自足主義經濟ニ向ッテ居ル今日ト致シマシテハ、從來ノ自由主義經濟下ニ於ケルガ如ク、良品廉價主義ノ輸出振興策ヲ採ルコトノミデハ適當デハアリマセヌノデ、相手國トノ協調ニ依リ、我國ノ輸出減退ヲ防グトカ、又ハ求償貿易主義ニ依リ、特定國ニ對スル輸出ヲ維持スル政策モ亦已ムヲ得ナインデアル、政府ハ輸出補償法ノ運用及ビ輸出組合ニ依ル統制等ノ方法ニ依ツテ、極力輸出ノ振興ヲ圖ル考デアル、尙ホ輸出品用原料ノ輸入ニ付キマシテモ、輸出振興上十分考慮スル積りデアル、第五點ニ對シマシテハ、目下經費ニ付キ大藏當局ト折衝中ノ物資需給調整ニ關スル新ナル進行ヲ圖ル豫定デアル、第六ノ物價騰貴機關ニ大藏當局ノ參加ヲ求メマシテ、輸入許可及ビ爲替許可ニ關スル事務ノ圓滑迅速

抑制ノ問題デアリマスガ、之ニ對シマシテハ
暴利取締、消費節約宣傳及ビ代用品利用獎
勵等ニ依リ、極力物價騰貴ヲ抑制致シテ居
リマスガ、尙ホ是等ノ措置ヲ以テ足ラザル
場合ニ於テハ、徹底的措置ヲ講ズル積リデ

次ニ商業組合法中改正法律案ノ提案ノ理由ニ關シマシテ、政府ヨリ大體次ノ如キ説明ガアツタノデアリマス、即チ現下ノ中小商業者ノ疲弊困憊セル所以ハ、百貨店或ハ産

業組合ノ進出等複雜ナル原因ニ依ルガ、何ト申シマシテモ中小商業者ノ經營自體ニ大

ナル缺陷ガアリ 不合理無統制ナ點ニ原因スル所ガ多イノデアリマス、ソコデ今回之ガ改善ヲ圖ル爲ニ商業組合法ヲ改正シテ、金融事業ノ擴充、商品券、倉庫證券ノ發行

等、其事業ノ範圍ヲ擴張スルト共ニ、統制確保ノ見地ヨリ、統制命令ニ關スル規定ヲ整備シ、統制ノミヲ目的トスル商業組合ノ

設立ヲ認メマシタ、之ニ伴ヒ組合ノ全國的指導連絡機關トシテノ商業組合中央會ノ制度ヲ法則比ニ、ハシモダアマス

度ヲ活用せんとするアリ、不
本案ニ關シマシテハ次ノ様ナ質疑ガアリ
マシタ、即チ産業組合ニ對シテ商業組合法

ノ適用アリヤトノ質疑ニ對シマシテ、現在ノ所、產業組合ニ對シテハ適用ナシトノ答

輸ガアリテニ本策ノ結果商業組合ニ觀スル規定ハ、從來ノ同業組合ノ機能ヲ侵ス虞ハナイカトノ質疑ニ對シマシテハ、本案中ノ經済事業ヲ行ハザル商業組合ノ統制ハ、主トシテハ全國的ナ配給統制ヲ行フ特殊ノ場合ヲアッテ、同業組合トハ趣旨ヲ異

ニスルモノデアルトノ答辯ガアリ、次ニ同業組合法ヲ改正シテ、之ニ積極的統制ヲ行ハシムル意向ハナイカトノ間ニ對シマシテ、ハ、政府ハ同業組合ノ過去ニ於ケル功績ト機能ニ付キ、十分ノ認識ヲ有スルモノデア

ルガ、唯今日人産業統制ヲ合理的ニ遂行不
ルニハ、積極的共同施設ヲ行ヒ得ル商業組
合組織ヲ適當トシ、同業組合法ノ改正ニ付
テハ、經濟事情ノ變化ニ適應スルヤウ、篤
ト考究致シタキ旨ノ意見ノ開陳ガアリ、次

ニ商業組合ト各種組合、殊ニ産業組合トノ摩擦ヲ防止スベキ具體の方策如何トノ質疑

ニ對シ 反対問題ニ付テハ農林省より緊急ナ
ル連絡ノ上、地方ノ實情ニ應シ商業組合ト
産業組合トノ協調ニ努メツ、アリトノ答辯
ガアリマシタ

次ニ有價證券業取締法案ノ提案理由ハ、我國産業ノ健全ナル發達ニハ、有價證券ノ流通ノ圓滑ト其取引ノ安全トヲ圖ルコトガ極メ

テ肝要デアリマシテ、政府ハ從來取引所政策ニ於テハ、常ニ意ヲ茲ニ用ヒ來ツタノデ

アリマスガ、取引所外ニ於ケル有價證券ノ
賣買等ニ付キマシテハ、何人モ其營業ヲ自
由ニ爲シ得ルコトトナツテ居リマス爲メ、近

時不正犯罪行爲ヲ行フ者モ尠カラザル狀態
デアリマスノデ、其弊害ヲ除去シ、取引ノ

安全ヲ圖ランガ爲メ、本案ヲ提出シタコト
デアリマス

レラル、ガ、政府ノ所見如何トノ質問ガアリ
マシタガ、之ニ對シ政府ハ、免許ニ付テハ
業者ノ資力信用等ヲ嚴密ニ調査ノ上許否ヲ
決定スル意向ニシテ、又營業保證金ノ額ニ
付テモ尙ホ攻究スベシトノ答辯デアリマシ
タ、又有價證券業ハ取引所取引ト密接ナル

關係ヲ有スルニ付キ、取引所所在地ニ於テハ、之ヲ取引所内ニ包含セシメテ、雜株ノ取引ヲ活潑ニ行ハシムルコトシテハ如何トノ質問ガアリマシタガ、之ニ對シ政府ハ、現在ノ問題トシテハ其點ニ付テ目下考

慮シテ居ラズトノ答辯ガアリマシタ、又本法案第十四條ノ制裁規定ニ於テ「差金ノ授受ヲ目内、又レ行爲ノアリ、チニアリモ、

目的ノナル行爲シタルトキ」トアルモ
之ヲ目的トシタルコトノ認定困難ニシテ、
業者ニ言述レノ機會ヲ與フル虞アルヲ以テ、
取締上實效ナキニアラズヤトノ質問ガアリ、

之ニ對シ政府ハ差金授受ヲ行ヒタル事實ガ重ナル場合ハ、當初ヨリ之ヲ目的トシタリトシテ、第十四條ノ制裁ヲ科スル意向

ナリトノ答辯ガアリマシタ、更ニ本法制
定ニ依リ業者ハ公認セラル、コトナルニ付

元看板ア悪用シテ不正行爲ヲ爲ストキハ、却テ弊害アリト認メラル、ガ、取締ノ完璧ヲ期シ得ルヤトノ質問ガアリ、之ニ對シ政

府ハ、本法ノ施行ニ際シテハ、地方廳ニ専門職員ヲ配置シテ嚴重ニ取締ル意向ナリトノ

答辯ガアリマシタ
質疑ヲ終了致シマシテ、討論ニ入りマシテ、民政黨ヲ代表致シマシテ高橋義次君、政友會ヲ代表致シマシテ川崎巳之太郎君、第一議員俱樂部ヲ代表致シマシテ林路一君、社大黨ヲ代表致シマシテ岡崎憲君カラ、ソ

レゾレ意見ノ開陳ガアツクノデアリマスル
ガ、結局各派共同致シマシテ、第一ノ昭和
十二年法律第九十二號中改正法律案ニ對シ
マシテハ、斯ウ云フ附帶決議ヲ附シタノデ
アリマス

附帶決議

一 政府ハ速ニ「バルブ」資材供給ニ關ス
ル根本對策ヲ確立スルト共ニ「バルブ」
ノ節約及廢物利用ノ具體策ヲ樹テ萬遺
憾ナキヲ期スヘシ

ソレカラ商業組合法中改正法律案ニ對シマ
シテハ、左ノ附帶決議ヲ附ケタノデアリマ
ス

附帶決議

一 現今ノ組合制度ノ全般ニ瓦リ再検討
ヲ爲シ之ヲ統合調整スル爲關係法律ノ
改正ヲ行ヒ組合制度ノ完璧ヲ期シ其ノ
組織機能ヲ十分活躍セシムヘシ

一 政府ハ本法案第二十七條ノ二ニ依リ
新ニ商業組合ノ設立ヲ命スル場合ニ於
テハ其ノ地區内ニ在ル他組合ノ實狀及
關係ヲ考慮シ特ニ慎重ヲ期スヘシ

更ニ希望意見ト致シマシテ、社大黨ノ岡崎
君カラ、貿易、產業及ビ財政ヲ一貫スル綜
合的行政ヲ確立スル爲ス、大藏省ノ部局ヲ
商工省ニ合併シテ、經濟省ヲ新設シテハド
ウカ、又健實且ツ特色アル小工業ノ保護ニ
善處シテ貰ヒタク、其他二三ノ希望意見ガ
開陳サレマシタガ、ソレハ速記録ニ依ッテ
御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス

斯クシテ昭和十二年法律第十二號中改正
法案律及ビ商業組合法中改正法律案ハ原案

通リ、有價證券業取締法案ハ貴族院修正通
リ、滿場一致可決致シマシテ、委員會ヲ終ッ
タ次第アリマス、此段御報告申上ゲマス

(拍手) ○議長(小山松壽君) 三案ノ第一讀會ヲ開
クニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 三案ノ第一讀會ヲ開
クニ御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシ
タ

○議長(小山松壽君) 三案ノ第一讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通
リ可決セラレンコトヲ望ミマス

○服部崎市君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通
リ可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議
案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 三案ノ第一讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通
リ可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 本改正案ハ市街地建築物
案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關
スル件) (政府提出、貴族院送付)

○議長(小山松壽君) 第二讀會(確定議)
案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關
スル件) (政府提出、貴族院送付)

○議長(小山松壽君) 第二讀會(確定議)
案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關
スル件) (政府提出、貴族院送付)

讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メ
マス——委員長深澤豊太郎君

第八 市街地建築物法中改正法律
案(政府提出、貴族院送付)

第一 読會ノ續(委員長報告)
報告書

一 市街地建築物法中改正法律案(政府提
出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和十三年三月十九日
委員長 深澤豊太郎

衆議院議長 小山松壽殿
(深澤豊太郎君登壇)

○深澤豊太郎君 本改正案ハ市街地建築物
案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關
スル件) (政府提出、貴族院送付)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議
案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 本改正案ハ市街地建築物
案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關
スル件) (政府提出、貴族院送付)

○議長(小山松壽君) 第二讀會(確定議)
案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關
スル件) (政府提出、貴族院送付)

○議長(小山松壽君) 第二讀會(確定議)
案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關
スル件) (政府提出、貴族院送付)

トシテ滿場一致可決致シマシタ、何卒委員
會ノ決定ノ通り御賛成アランコトヲ希望致
シマス、以上ヲ以テ報告ト致シマス(拍手)
○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開
クニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開
クニ御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシ
タ

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通
リ可決セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——入營者職業保障法中改正法律案、第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求ヌマス——委員長田中亮一君

入營者職業保障法中改正法律案(政府提出)

報告書

第一讀會ノ續(委員長報告)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

委員長 田中 亮一

衆議院議長小山松壽殿

希望條項

一、退營者ノ再雇傭就職條件ハ努メテ其ノ地位及給與額ニ於テ前職時代ヨリハ向上増額セシムル様雇傭者ノ道義心ニ訴ヘテ善處萬全ヲ期セラレ度シ

一、退營者ニシテ始メテ職場ヲ求ムル者ニハ性能、經歷、趣味等ヲ考查シ適職主義ニヨリ善處サレ度シ

一、關東州、北支、蒙疆、中南支等ノ帝國權益地帶ニ於ケル職業紹介所竝ニ軍部補導部ノ充實ヲ企圖シ退營者現地就職者ノタメ遺憾ナキヲ期セラレ度シ

一、傷痍軍人ノ再雇傭或ハ新求職ニ對シテ豫メ勞働ノ強化職業疾患等ノ事態生セザル勞働環境ヲ選擇スルニ留意セラレ度シ

〔田中亮一君登壇〕

○田中亮一君 只今上程ニナリマシタ入營者職業保障法中改正法律案ニ關スル委員會ノ審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、

本案ニ付キマシテハ各委員諸君ヨリ熱心ナル御質疑、又適切ナル御意見ガ交サレタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府亦懇切丁寧ナル所ノ御答辯ガアツタノデアリマス、此経過ニ付キマシテハ速記録ニ依テ御承知ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、質問ヲ打切リマシテ討論ニ入りマシタ、討論ノ結果民政黨ノ片岡恒一君ヨリ左ノ希望條項ヲ附シテノ原案ニ賛成ノ御意見ガアツタノデアリマス、又政友會ヲ代表シテ服部岩吉君ヨリ、片岡君ノ御趣旨ト同様ノ御意見ニ依テ本案ニ對スル賛成ノ意見ヲ述べラレタノデアリマス、又第一議員俱樂部ノ江藤源九郎君ヨリモ、同趣旨ノ意味ニ於キマシテ本案ニ賛成ノ意ヲ表セラタノデアリマス、又社會大眾黨ノ淺沼稻次郎君ヨリモ、同趣旨ノ下ニ賛成ノ意ヲ表セラレタノデアリマス、討論終結致シマシテ採決ニ入りマシテ、左ノ希望條項ヲ附シテ原案ニ賛成スルコトニ決定致シタノデアリマス、茲ニ希望條項ヲ朗讀致シマス

希望條項

一、退營者ノ再雇傭就職條件ハ努メテ其ノ地位及給與額ニ於テ前職時代ヨリハ向上増額セシムル様雇傭者ノ道義心ニ訴ヘテ善處萬全ヲ期セラレ度シ

一、退營者ニシテ始メテ職場ヲ求ムル者ニハ性能、經歷、趣味等ヲ考查シ適職主義ニヨリ善處サレ度シ

一、關東州、北支、蒙疆、中南支等ノ帝國權益地帶ニ於ケル職業紹介所竝ニ軍部補導部ノ充實ヲ企圖シ退營者現地就職者ノタメ遺憾ナキヲ期セラレ度シ

一、傷痍軍人ノ再雇傭或ハ新求職ニ對シテ豫メ勞働ノ強化職業疾患等ノ事態生セザル勞働環境ヲ選擇スルニ留意セラレ度シ

主義ニヨリ善處サレ度シ

一、關東州、北支、蒙疆、中南支等ノ帝國權益地帶ニ於ケル職業紹介所竝ニ軍部補導部ノ充實ヲ企圖シ退營者現地就職者ノタメ遺憾ナキヲ期セラレ度シ

一、傷痍軍人ノ再雇傭或ハ新求職者ニ對シテ豫メ勞働ノ強化職業疾患等ノ事態發生セザル勞働環境ヲ選擇スルニ留意セラレ度シ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、暫時休憩致シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

午後一時五十八分休憩

右御報告ト致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ第一讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第一讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 本案ノ第一讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通

リ可決セラレントラ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○服部崎市君 此際暫時休憩セラレントラ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

午後三時三十四分開議

○議長(小山松壽君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス

ラレムコトヲ望ム
右決議ス
〔多田満長君登壇〕

○多田満長君 只今上程サレマシタ航空擴充ニ關スル決議案ノ提案理由ヲ極メテ簡單ニ申上ゲマス、「政府ハ支那事變ト國際情勢ノ急迫トニ鑑ミ軍用航空並民間航空ノ振興擴充ニ銳意努力シ併セテ國際航空路ノ開拓ニ邁進セラレムコトヲ望ム」是ガ本決議案ノ全文デアリマス、今日緊迫セル國際情勢ニ鑑ミ、之ニ即應スベキ我日本國民トシテハ、舉國航空ノ完成ヘ、之ヲ「モットー」トシテ進ム必要ガアリマス、是ト同時ニ我日本トシテハ、航空ハ何物ニモ先行スト云々鑑ミ、之ニ即應スベキ我日本國民トシテハ、舉國航空ノ完成ヘ、之ヲ「モットー」トシテ進ム必要ガアリマス、是ト同時ニ我日本トシテハ、航空ハ何物ニモ先行スト云々此決議案ノ内容ヲ一言ニシテ申セバ、此二ツノ標語ニ盡キルノデアリマス、今次ノ支那事變ニ於ケル皇軍ノ奮闘力戰ニ對シテハ、國民ノ齊シク感謝措ク能ハザル所デアルガ、事變勃發以來僅ニ半歲ヲ出デズシテ、流石堅壘ヲ以テ誇レル上海ヲ抜キ、更ニ長驅敵ノ首都南京ヲ攻略セルコトハ、世界史上未ダ曾テ見ザル所デアッテ、眞ニ驚嘆ニ值スルモノガアリマス(拍手)此急速ニシテ光輝アル戰果ノ獲得ハ、畏クモ上、陛下ノ御稜威ニ依ルコトデアリマスガ、又一方ニ於テハ俊敏果敢ナル我ガ陸海空軍ガ、此戰ノ初期ニ於テ先づ制空權ヲ把握シ、一舉敵ノ死命ヲ制シタルニ依ルモノデアッテ、其ノ勳功實ニ偉大ナリト申サナケレバナリマセヌ(拍手)暴支膺懲ノ師ハ未ダ其半バニモ達シマセヌ、彼蔣介石ヲ屈服セシメ、

真ニ東洋永遠ノ平和ヲ確立センガ爲ニハ、尙ホ相當ノ長期戰ヲ覺悟スベキハ當然デアリマス、而モ國際政局ノ動キハ極メテ微妙デアル、不安ヘ其度ヲ加ヘツ、アリマス、列強ノ軍備擴張熱ハ愈、熾烈トナリ、競ウテ國防ノ充實ニ專念シ、就中航空ノ擴張ニ付テハ全力ヲ傾倒シテ、何物ヲ犠牲ニスルモ惜マザル情勢デアリマス、此間ニ處スル我軍航空ハ果シテ現狀ヲ以テ滿足シ得ベキヤ否ヤ、昨年ノ春米國ノ商務局ノ發表セル數字ニ依ツテ見マスト、主要國ノ空軍勢力ハ英國四千機、佛蘭西三千六百機、「ソ聯三千四百機、伊太利三千二百機、獨逸三千機、米國二千二百機、而シテ我日本ハ二千機ト云フコトデアリマス、此數字ガ正確カ否カハ明瞭デハナイ、又其後ニ於テ變化モアッタデアラウガ、大體間違ガナイトイズレバ、日本空軍ハ其機數ニ於テ主要國ノ最下位ニアリマス、如何ニモ心細イノデアル、空軍ハ何物ニモ先行シテ其擴充ヲ圖ル必要ガアル、假令軍艦ノ一隻ヤ二隻ヤ其建造ヲ延期シテモ、亦一箇師團ヤ二箇師團場合ニ依ツテハ縮小ヲ致シテモ、航空擴充ノ爲ニハ已ムヲ得ナイト確信スル者デアリマス(拍手)

民間航空機が今回ノ事變ニ際シ、軍指揮ノ下ニ活躍ヲシ、軍事上ニ大ナル貢獻ヲ爲シタル事實ニ對シテ、國民亦非常ナル感謝ヲ惜マザルモノデアリマス、恐らくハ軍ノ裝備ガ近代化サレ、機械化部隊ガ軍ノ主要ナル勢力トナルニ從ツテ、民間航空機ノ效用ハ益増加スルニ違ヒアリマセヌ、隨テ一國空軍勢力ノ算定ニハ、其物的、人的勢力ヲ度外視スル譯ニハ參ラヌノデアリマス、然ルニ我ガ民間航空ハ列強ニ比シテ頗ル劣シタル、全世界平均カラ見マスト、民間機數ハ軍用機ノ半分デアルノニ比シテ、日本トヨタリマス、而モ民間航空工業ノ飛躍向上ニ資セんコトナリ我ガ航空工業ノ飛躍向上ニ資セんコトヲ希望スル次第デアリマス、航空機乗員ノ養成ニ付テモ、未ダ吾々ヲシテ満足セシムルコトハ出來マヌ、政府ハ航空工業ノ確立ト相俟チ、操縦士ガ我方航空界發展ノ一大要素ヲ成ス點ニ深ク思テ致シ、優秀ナル操縦士ノ大量養成ニ向ツテ、更ニ一段ノ力ヲ盡スベキデアリマス

更ニ歐洲列強諸國ニ於テハ、既ニ自國內ノ航空線路ヲ充實致シテ、遠ク大陸ヲ越エ、大洋ヲ横斷シテ、國際航空線路ヲ開設シ、自國ノ權益進出ニ邁進シテ居リマス、今日ニ於テハ一衣帶水ノ彼方ニアル支那ガ、列國航空線路獲得ノ焦點トナツテ居ルト云フ現状デアル、然ルニ我國民間航空事業ハ僅ニ國內線トシテ、札幌、臺灣間、福岡、大連間ノ兩幹線ヲ、舊式機ヲ利用シテ辛ウジテ運航ヲ繼續致シテ居ルニ過ギマセヌ、國際路線トシテハ滿洲國ニ通ズル東京、新京線ノ一本ダケト云フ、淘ニ憐ムベキ現状ニ速ニ今事變ニ於ケル軍事占領地域ニ向ツテ、定期航空線路ヲ開設スルコトハ勿論、進ンデ米大陸或ハ歐洲、並ニ南洋方面ヘノ國際

線路ヲモ開拓シテ、經濟、文化、交通、有
ユル方面ニ向シテ、我ガ帝國ノ東洋ニ於ケル
地歩ヲ確保スル必要ガアリマス、私共ハ航
空ノ擴張ニ付テ屢々、政府ノ所信ヲ質スト、
何時モキマリ文句デ、其必要ハ痛感シテ居
ルガ、財源ガナイト言フ、若シ夫レ大藏省
ガ此方面ニ金ヲ出シ澁ルト云フコトデアリ
マスナラバ、或ハ夫レ國ヲ誤ルノ譏リヲ免
レマスマイ、臨時軍事費ヲ通算シテ八十五
億ニ近イ我ガ來年度ノ豫算、此厖大ナル豫
算ヲモ我國民ハ有ユル苦難ヲ忍ビナガラ
モ、喜ンデ負擔セントスル所以ノモノハ、
今日ハ方ニ國家危急存亡ノ岐路ニ立ッテ居
ルト云フコトヲ、十分理解致シテ居ルカラ
デアリマス（拍手）我ガ國民ハ國際關係ニ鑑
ミ、今回ノ事變ニ因リ、更ニ認識ヲ新ニシ
テ、航空擴充ノ必要ヲ痛感シテ居ル、是ガ
爲ニハ如何ナル苦痛ヲ忍ブモ敢テ辭セナイ
ノデアル、此場合寧ロ認識ヲ新ニスベキハ
政府當局デアリマスイカ、政府當局ニ
要求セントスルモノデアル（拍手）此決議案ハ
政府當局ニ於ケル軍民一貫セル航空擴充ノ擴
充ノ算ヘテ居リマス、恐ラクハ全院ノ聲ト
見テ宜シイ、全院ノ聲ハ即チ國民ノ聲デアリ、
總意デアル、關係閣僚ハ勿論、總理大臣以
下全閣僚ハ、此決議ノ重要性ヲ深ク心ノ中
ニ牢記セラレテ、深甚ノ考慮ヲ拂ヒ、今後
ニ於ケル軍民一貫セル航空擴充ヲ圖
リ、速ニ根本對策ヲ樹立セラレテ、著々之ヲ
實行ニ移スベキデアリマス、之ヲ以テ本案提
案ノ理由ト致シマス、何卒御賛同ノ上可決セ

ラレンコトヲ切望致ス次第デアリマス（拍手）

ユル方面ニ向シテ、我ガ帝國ノ東洋ニ於ケル
地歩ヲ確保スル必要ガアリマス、私共ハ航
空ノ擴張ニ付テ屢々、政府ノ所信ヲ質スト、

何時モキマリ文句デ、其必要ハ痛感シテ居
ルガ、財源ガナイト言フ、若シ夫レ大藏省
ガ此方面ニ金ヲ出シ澁ルト云フコトデアリ
マスナラバ、或ハ夫レ國ヲ誤ルノ譏リヲ免
レマスマイ、臨時軍事費ヲ通算シテ八十五
億ニ近イ我ガ來年度ノ豫算、此厖大ナル豫
算ヲモ我國民ハ有ユル苦難ヲ忍ビナガラ
モ、喜ンデ負擔セントスル所以ノモノハ、
今日ハ方ニ國家危急存亡ノ岐路ニ立ッテ居
ルト云フコトヲ、十分理解致シテ居ルカラ
デアリマス（拍手）我ガ國民ハ國際關係ニ鑑
ミ、今回ノ事變ニ因リ、更ニ認識ヲ新ニシ
テ、航空擴充ノ必要ヲ痛感シテ居ル、是ガ
爲ニハ如何ナル苦痛ヲ忍ブモ敢テ辭セナイ
ノデアル、此場合寧ロ認識ヲ新ニスベキハ
政府當局デアリマスイカ、政府當局ニ
要求セントスルモノデアル（拍手）此決議案ハ
政府當局ニ於ケル軍民一貫セル航空擴充ノ擴
充ノ算ヘテ居リマス、恐ラクハ全院ノ聲ト
見テ宜シイ、全院ノ聲ハ即チ國民ノ聲デアリ、
總意デアル、關係閣僚ハ勿論、總理大臣以
下全閣僚ハ、此決議ノ重要性ヲ深ク心ノ中
ニ牢記セラレテ、深甚ノ考慮ヲ拂ヒ、今後
ニ於ケル軍民一貫セル航空擴充ヲ圖
リ、速ニ根本對策ヲ樹立セラレテ、著々之ヲ
實行ニ移スベキデアリマス、之ヲ以テ本案提
案ノ理由ト致シマス、何卒御賛同ノ上可決セ

○議長（小山松壽君） 是ニテ討論ハ終局致シ
ス、通告順ニ依ツテ發言ヲ許シマス——依
光好秋君

○依光好秋君 極メテ簡單デゴザイマスル
カラ、此席ヨリ發言ノ御許ヲ願ヒマス

○議長（小山松壽君） 簡單ナラバ宜シウゴ
ザイマス

○依光好秋君 只今上程サレマシタル航空
擴充ニ關スル決議案ハ、多田君ノ御説明ニ
私共全ク同感デゴザイマス、時代ノ趨勢ニ
鑑ミ、殊ニ戰時事變下ニ在ル所ノ我國ニ取
テハ、最モ適切ニシテ緊要ナル施設ノ一ツ
ト考ヘルノデゴザイマス、政府當局ニ於カ
レマジテモ、勿論本案ニ對シテ御異議ハア
ルマイト存ジマス、一日モ速ニ政府當局ハ
本施設ノ實現ニ向シテ最大ナル努力ヲ拂ハ
レントコトヲ切望スル者デアリマス、私ハ茲
ニ政友會ヲ代表致シマシテ、本案ニ對シテ
贊成ノ意ヲ表スル者デゴザイマス（拍手）

○議長（小山松壽君） 安藤孝三君

○安藤孝三君 簡單デゴザイマスルカラ自
席カラ發言ヲ御許願ヒマス

○議長（小山松壽君） 宜シウゴザイマス

○安藤孝三君 航空擴充ニ關スル決議案

ハ、只今提案者カラ詳シク説明ガゴザイマ
シタ通リデゴザイマスルガ、御承知ノ如ク

私ハ一飛行士トシテ、斯クモ議員先輩各位

ノ之ニ對スル方策ハ、極メテ物足ラザル次

第デアリマス、政府ハ本決議ノ趣旨ヲ體シ

テ、積極的ナル努力ヲ拂ハレンコトヲ切望

スル上ニ於テモ極メテ重要デアリマス、今
日我國現下ノ航空事業ノ現状ヲ顧ミマスル

ナラバ、内地航空路ノ發達スラモ、極メテ
幼稚ノ域ヲ脫シテ居リマセヌ、然ルニ政府

ニ堪ヘマセヌ、以上簡單ニ所懷ノ一端ヲ

述ベテ、社會大眾黨ヲ代表シ、本決議案ニ
滿腔ノ贊意ヲ表スル次第デアリマス（拍手）

○安藤孝三君 航空擴充ニ關スル決議案

ハ、只今提案者カラ詳シク説明ガゴザイマ
シタ通リデゴザイマスルガ、御承知ノ如ク

私ハ一飛行士トシテ、斯クモ議員先輩各位

ノ之ニ對スル方策ハ、極メテ物足ラザル次

○議長（小山松壽君） 是ニテ討論ハ終局致シ
ス、之ヲ許シマス——遞信大臣永井柳太郎君
（國務大臣永井柳太郎君登壇）

○國務大臣（永井柳太郎君） 只今上程セラ
カラ御許ヲ願ヒマス

○塚本重藏君 簡單デゴザイマスカラ此席
カラ御許ヲ願ヒマス

○議長（小山松壽君） 宜シウゴザイマス

○塚本重藏君 只今上程セラレマシタル航
空擴充ニ關スル決議ノ趣旨ハ、提案者ヨリ
詳細ナル説明ガ述べラレマシタ、更ニ同僚
數氏カラモ戰時體制下、其必要ナル所以ヲ
力説セラレタノデアリマス、其所論ニ對シ
マシテハ全ク同感デアリマス、航空事業ノ
振興擴充ガ、支那事變ノ長期作戦ニ對應シ
テ、緊要ナルコトハ論ヲ俟タザル所デアリ
マス、又世界各國ノ航空事業ノ發達ニ對應
シテモ、日本帝國ハ國際航空路ノ開拓ニ邁
進スルノ必要ヲ痛感スル次第デアリマス、
更ニ航空事業ノ振興擴充ハ、現下ノ戰局ト
歐米諸國トノ國際關係上必要ナルノミナラ
ズ、今後ノ日滿支相互ノ連絡ヲ一層緊密ニ
シ、經濟提携、產業開發、文化向上等ニ資
スル上ニ於テモ極メテ重要デアリマス、今
日我國現下ノ航空事業ノ現状ヲ顧ミマスル
ナラバ、内地航空路ノ發達スラモ、極メテ
幼稚ノ域ヲ脱シテ居リマセヌ、然ルニ政府

ニ提案致シマシタ航空機乗員養成施設費、
國立飛行場開設費、中央航空研究所設立準
備費等ハ、差向キ十三年度豫算ニ於キマシ
テハ、實行可能ノ範圍内ニ止メマシタ次第
デアリマシテ、其計畫ノ内容ハ、後年度ニ
於キモ、從來ハ單ニ飛行機ノ實驗ノ如キ
モ、模型ヲ風洞ノ内デ飛バスヤウナ仕掛
ニナッテ居ルノデアリマスガ、此研究所ガ

設立セラレマスレバ、實際ニ飛行機ヲ十分
ニ飛バセテ實驗シ得ル、大仕掛ノ風洞ヲ

モ計畫シテ居ルノデアリマシテ、遞信省
ノ豫定計畫ニ依レバ、約五箇年ニ亘ツテ一
億三千六百万圓ヲ計畫シテ居リマス、本研
究機關が實現致シマスレバ、世界ノ如何ナ

ルモノニ比ベテモ、斷ジテ劣ル所ハナイト確

信シテ居ルノデゴザイマス(拍手)

又乘員養成施設、飛行場新設等ノ如キモ、計畫通り實現致シマスナラバ、我國民間航空ハ其面目ヲ一新スルデアラウコトヲ確信致シテ居ルノデゴザイマス、政府ハ航空機製造事業ニ付キマシテモ、是ガ助長統制ノ必要アリト認メマシテ、本議會ニ航空機製造事業法案ヲ提出致シマシテ、該事業ノ急速ナル振興ヲ企圖致シ、既ニ衆議院ノ御協賛ヲ經マシタコトハ、私ノ衷心ヨリ感謝致シテ居ル所デゴザイマス

尙ホ又多田君ガ御述ニナリマシタ如ク、國際航空路ノ開拓ノ重要ナルコトハ、政府モ全

ク同感ニ存ジマス、政府ト致シマシテハ從來ノ日滿、日支、兩國間ニ於ケル航空路ノ外、新ニ對支航空路ノ開設ニ付キマシテハ、福岡、上海、南京線、及ビ東京、福岡、青島、北京線ノ實現ニ要スル經費ヲ、追加豫算トシテ要求シテ御審議ヲ願ツテ居ル次第デゴザイマス、尙ホ廣ク世界各方面ニ向ッテ我が航空路ノ進出ヲ企テルト云フコトモ、全然同感デアリマシテ、我國ノ海上ニ於ケル航路ガ全世界ニ通ズル如ク、空中ニ於ケル航路モ、亦同ジク全世界ニ通ゼンコトヲ期スルモノデゴザイマス(拍手)其實現ニ付キマシテハ、折角努力中デアリマスガ、唯事外交ノ機微ニ關スル所ガ少クアリマセヌノデ、具體的ニ只今御報告申上ゲ兼ネマスコトヲ遺憾ニ存ジマス

要スルニ航空事業ノ振興ヲ圖リマスガ爲ニハ、何分ニモ多田君御述ニナリマシタ通リ、多大ノ經費ヲ伴ヒマスル關係上、吾々

ト致シマシテハ出來得ル限リノ努力ヲ致シマスケレドモ、各位ノ御協力ニ俟ツ所大ナルモノガアルノデゴザイマス、願クハ將來一層ノ御後援ヲ賜リマシテ、航空擴充ノ大業ノ成就ニ付キマシテ、吾々ト共ニ御協力アランコトヲ衷心ヨリ希望致シマシテ、政府ノ所見ヲ終ル次第アリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 採決致シマス、本案ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(總員起立)

○議長(小山松壽君) 起立總員、仍テ本案ハ全會一致可決致シマシタ

(拍手起立)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際堤康次郎君外四名提出、武道振興ニ關スル決議案ヲ議題ト爲シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマシタ、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、武道振興ニ關スル決議案ヲ議題ト致シマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者藤生安太郎君

武道振興ニ關スル決議案(堤康次郎君外四名提出)

武道振興ニ關スル決議案

方今時局ノ極メテ重大ナルニ鑑ミ深ク肇

國ノ精神ヲ顧ミ益、忠勇義烈ノ國民道德ヲ涵養セシメムカ爲ニ政府ハ宜シク諸般ノ施設ヲ通シテ武道ヲ振興スヘシ

右決議ス

(藤生安太郎君登壇)

○藤生安太郎君(登壇) 只今議題ト相成リマシタ

武道振興ニ關スル決議案ノ提案理由ヲ御説明致シマス、從來武道ニ關シマシテハ、本會議ニ於キマシテハ勿論、委員會ニ於キマシテモ、未ダ殆ド論議ノ題目ニ供セラレタコトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

マシタコトハ、現下國防上ニ於テハ勿論、シテモ、速戰速勝以テ世界第一ノ武威ヲ輝コトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

マシタコトハ、現下國防上ニ於テハ勿論、シテモ、速戰速勝以テ世界第一ノ武威ヲ輝コトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

マシテ、又國家百年ノ大計ノ上カラ見マシテモ、私ノ至極快トスル所デアリマス、

武道若クハ武道教育ナルモノノ内容ト面目ハ、明治維新ニ依ツテ一新紀元ガ劃セラレタノデアリマス、之ヲ要約シテ申シマスレバ、

封建時代ノ藩公主君ヲ對象トスル、所謂建小義ノ武士道カラ、維新以後ニ於キマシテハ、御皇室ヲ對象トシ奉ル所ノ、所謂維新大義ノ武士道ニ歸ツテ、武道本來ノ嚴肅ナル面目ヲ發揮スルニ至ツタノデアリマス、

即チ我ガ武土道ハ、明治十五年軍人ニ賜リマシタ御勅諭ニ、忠節、武勇、信義、禮義、質素ト云フ五ツノ德目ヲ御明示ニ相成ツタコトニ依リマシテ、茲ニ初メテ根本的ニ體化サレ、普遍的安當性ヲ與ヘラレルニ至ツタノデアリマス、故ニ此御勅諭コソハ我ガ

トシ、之ヲ眼目トシテ實踐セラレナケレバ受ケマシタル結果、彼ノ日清、日露ノ兩戰役ニ於テモ大勝シ、今又東亞ノ聖戰ニ於キマシテモ、速戰速勝以テ世界第一ノ武威ヲ輝コトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

マシテモ、未ダ殆ド論議ノ題目ニ供セラレタコトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

マシテモ、速戰速勝以テ世界第一ノ武威ヲ輝コトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

マシテモ、速戰速勝以テ世界第一ノ武威ヲ輝コトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

マシテモ、速戰速勝以テ世界第一ノ武威ヲ輝コトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

マシテモ、速戰速勝以テ世界第一ノ武威ヲ輝コトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

マシテモ、速戰速勝以テ世界第一ノ武威ヲ輝コトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

訓練ノ規範トシテ、更ニ大義の武士道ノ顯彰ノ爲ニ御下賜相成ツタモノト拜察スルノアリマス(拍手)隨テ我ガ國民ノ武士道理念、武士道訓練ハ、此御勅諭ノ大精神ヲ大本トシ、之ヲ眼目トシテ實踐セラレナケレバナラナインノデアリマス、我ガ國民ハ明治時代ヨリ此御勅諭ヲ御精神ヲ拳々服膺シテ、武士的精神ヲ大イニ鍛錬シ、武士的訓練ヲ受ケマシタル結果、彼ノ日清、日露ノ兩戰役ニ於テモ大勝シ、今又東亞ノ聖戰ニ於キマシテモ、速戰速勝以テ世界第一ノ武威ヲ輝コトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

カシ、皇軍ノ威武ハ太陽ノ如ク炳々乎トシテ輝キ、天皇ノ御稟威ト日本ノ國威ハ、シテモ、速戰速勝以テ世界第一ノ武威ヲ輝コトハナカツタノデアリマス、幸ヒ本日茲ニ各派共同ノ決議案トシテ取扱ハレルニ至リ

ニ俟タナケレバナラヌト信ズルノデゴザイ
マス(拍手)

抑、日本精神ト日本武道トハ、元々一體不可分ノ關係ヲ有シテ居ルノデアリマシテ、日本精神ヲ離レテ日本武道ノ理解ハ不可能デアリ、日本武道ヲ外ニシテ日本精神ノ體得ハ出來難イノデアリマス、即チ道義ノ廢ク所欣然トシテ死地ニ入り、毫モ利害得失ヲ顧ミズ、勇猛敢爲恐ル、所ナク、唯一途ニ一命ヲ致サントスル義烈敢爲ノ氣象ヲ喚起スコトナクシテハ、日本精神ヲ説イテ千言萬語ヲ費スモ、畢竟無用ノ戲論タルニ過ギナインデアリマス(拍手)日本精神ノ復活顯揚ヲ叫ブ聲ハ中々盛デアリマス、然ルニモ拘ラズ是ト一體不可分ノ關係ニアル所ノ日本武道ノ復活ニ付テ、之ヲ唱ヘル人ノ少イノハ、私ノ洵ニ意外トシ且又頗ル遺憾トスル所デアリマス、御承知ノ如ク畏多クモ明治大帝ハ明治五年ニ徵兵令ヲ御發布ニナリ、武士ト農工商トノ階級的差別ヲ撤セシメラレマシテ、全國民ノ兵トセラレマシタ結果、全國民ハ悉ク武士ト相成ツテ居ルノデアリマス、平常農工商ソレヽ生業ニ從ツテ居リマスケレドモ、一朝事アルベキ場合ニハ、銃劍ヲ執ツテ敢然ト起ツ、然ルニモ拘ラズ動トモスルト一般ニ武士ト云フモノハ、明治初年ノ斷髮廢刀ニ依ツテ廢止セラレタノデアル、隨テ武士道ノ如キモ、之ヲ封サヘアルヤウデアリマスルガ、是ハ大イナ

ジテ、己ノ責任ハ命ニ懸ケテ之ヲ果スト云
フ、責任尊重ノ精神ガ旺盛デアリマシタナ
ラバ、國家ノ政治モ、國民ノ生活モ、モット
活潑ニ、モット明朗ニ、其健全性ヲ發揮シ
得ルモノト考ヘルノデアリマス（拍手）殊ニ
國家ノ政治、國民ノ生活ノ、其指導的責任
ノ地位ニアラレル所ノ内閣諸公ガ、此責任
尊重ノ精神、犠牲心ヲ以テ事ニ當ルノ眞劍
味ヲ、愈々益御示シニナレバナル程、即チ
武士道精神ガ旺盛デアレバアル程、日本ノ
政治モ國民ノ生活モ、モット強ク明ルク、
其健全性、其進歩性ヲ發揮スルモノト考ヘ
ルノデアリマス（拍手）即チ責任ノ明ニサレ
ル所ニハ必ズ信賴ガアル、必ズ理解ガアル、
必ズ又同情ノ念ガ油然トシテ湧キ立ツノデ
アリマス、此信賴ト理解ト同情ノ念トニ依ッ
テ、國民全體ガ一體トナル時、茲ニ本當ニ
眞ニ強イ舉國一致ガ生レルノデアリマス
(拍手)實ニ尊ブベキハ責任尊重ノ精神デア
リマシテ、而モ之ヲ命懸ケデ實行實踐セン
トスル所ノ者ハ武士デアリマス、私ガ武士
道精神ノ復活顯揚ヲ力説シ、政府ニ要望セ
ントスル所以モ茲ニアルノデアリマス（拍
手）

是ダケノ熱意ヲ武道ニ對シテ、何時何處ニ御示シニナッタカ（拍手）寡聞ニシテ私ノ未ダ聞カザル所デアリマス、武道ハ學校ニ於キマシテモ、亦民間ニ於キマシテモ、興味ヲ中心トスル興味本位ノ競技、若クハ一般體育ト同格若クハソレ以下ニ取扱ハレツ、アル現狀デアリマス、武道修業ノ第一義ハ飽マデモ御勅諭ノ御精神ヲ研磨薰陶シ、義烈敢爲ノ犠牲的精神ヲ以テ事ニ當ラントスル實踐的ノ訓育ニ在ルノハ勿論デアリマスルガ、其修業過程ニ於テハ立派ニ體育デアリマス、而モ此體育ハ日本人ノ性情ト日本人ノ體格ニ最モ適當シタル體育デアリマスカラ、今日日本人ノ體位向上ヲ期スル爲ニハ、是方獎勵ト是ガ指導ハ洵ニ緊要事ト言ハナケレバナリマセヌ、日本ノ武道ハ唯單ニ體育トシテ論ズル場合ニ於キマシテモ、私ハ西洋流ノ體育ト同列ニ之ヲ論ズベキモノデハナイ、斯様ニ考へテ居リマス、況ヤソレヲ武術トシテ論ズル場合ニ於キマシテハ、更ニ異ルモノガアルノデアリマス、西洋ノ武術ガ經濟的理法ニ出ヅルニ反シテ、我ガ日本ノ武術ハ超經濟ノ精神ニ立カニ居ルノデアリマス、西洋ノ彼ノ「フェンシング」ハ、其姿勢ヲ半身ニ開イテ、片手ニ劍ヲ持チ、片手ヲ後ニ退イテ、サウシテ自分ノ身ヲ最モ多ク護リナガラ、而モ敵ヲ最モ多ク傷ケヨウトスル、此「フェンシング」ノ態度、此精神ハ全ク經濟的理法ニ出デテ居ルモノト言ハナケレバナリマセヌ（拍手）併ナガラ日本ノ武道ハ之ニ反シテ居ル、即チ兩手ニ一劍ヲシカト握ツテ、

此一劍ニ全生命ヲブチ込ンデ、全身、全力、全精神ヲ火ノ塊ノヤウニシテ、サウシテ而モ正面カラ堂々ト敵ノ懷ニ捨身ニナツテ飛込ンデ、死中ニ活殺ノ自在ヲ得ントスル所ニ、日本ノ武道ノ面目ガアルノデアリマス（拍手）劍聖宮本武藏ガ「切結ブ太刀ノ下コソ地獄ナレ踏込ミ見レバ後ハ極樂」ト申シテ居リマスガ、斯ノ如キハ西洋流ノ經濟的理法ニ依ツテハ斷ジテ説クコトノ出來ナイ超經濟ノ精神デアリマシテ（拍手）我ガ日本ノ武道ガ世界ニ比類ナキ威力ヲ示ス所以デアリマス（拍手）

今次事變ニ於キマシテモ、我ガ皇軍ガ到ル處ニ於テ連戦連勝、而モ其勝利ヲ快速ニ神速ニ決シテ、所謂神速部隊、快速部隊ノ名ヲ擅ニシテ、全世界ヲ驚倒セシメタ所以ノモノハ、是ハ畢竟スルニ我ガ皇軍將士ガ獨特無比ノ肉彈戰ヲ決行シタカラデアリマス、之ニ反シテ西班牙ノ戰爭ヲ御覽ナサイ、彼等ハ二箇年ヲ經過シタル今日、尙ホ依然トシテ數百米ヲ隔テテ鐵砲ノ擊チ合ヲ續ケテ、相對峙シタ儘最後ノ勝敗ヲ決シ兼ネテ居ル有様デアリマス、是ハ即チ日本ノ肉彈戰ヲ決行シ得ザル爲ヌデアリマス、實ニ此壯快無比ニシテ、サウシテ忠勇義烈ナル肉彈戰コソハ、我ガ日本武道ノ超經濟的神精神ニ依ツテノミ養ヒ得ラレル所ノ戰鬪精神デアリマス、而モ此精神ハ三千年來輝カシキ傳統ト歴史ト共ニ榮エ來タ所ノ精神デアリマステ、吾々ノ先人祖師ガ生死ノ巷ニ出入シテ、研磨薰陶シテ仕上ゲタ所ノ精神デアリマス、ソレヲ吾々ハ繼承シテ居ル、デアルカラ吾

吾モ此精神ニモトノ磨キヲ掛ケテ、之ヲ
ノ貴キ責任デアリ、義務デアルト申サナケ
レバナリマセヌ（拍手）然ルニ武道界ノ現狀
上ガルコトハ差控ヘマス、併ナガラ武道界
ノ現狀ヲシテ、斯ノ如キ現狀ニ立到ラシメ
タ所以ノモノハ、獨リ武道家、武道團體ノ
ミノ責任デハアリマセヌ、其監督、其指導、
其獎勵ノ地位ニアラレル政府ガ大イニ其責
任ヲ持チ、又大イニ反省ヲシナケレバナラ
ヌト思フノデアリマス

居ルニ過ギナイヤウナ状態デアリマス、明ノ爲ニハ實ニ到レリ盡セリノ豪華ナ設備ガ完全致シテ居リマスケレドモ、此日本古來ノ武道ノ爲ニハ、何一ツトシテ設備ガナイヤウナ状態デアリマス、斯ノ如ク學ゲ來リマスルナラバ枚舉ニ違ガナイノデアリマス私ハ各派ノ同志ノ御協力ヲ得テ、武道ノ振興策トシテ建議スルコト十幾種デアリマスガ、之ヲ以テ考ヘテ見マシテモ、從來如何ニ武道ガ閑却サレテ居タカト云フコトガ問題ヲ解決シテ、武道ノ振興ヲ期スル必要同ノ武道審議會ヲ設置セラレテ、是等ノ諸行進ヲ續ケツ、アル一般大衆ノ興味ト人氣ヲ唆ル競技運動ノ時流ニ投ズルコトハ極メアリト痛感スル者デアリマス、華ヤカナル所謂華ヲ去リ實ニ就クコトハ極メテ困難デアリマス、併ナガラ之ヲ敢テ爲スト爲サザルハ、一國文教ノ健全不健全ノ岐レル所デアリ、延イテハ國運ノ消長ニモ關係スル所ベカラズ、文ニ偏スレ浮華、武ニ偏スレ粗暴、文武相俟テ道眞ニ興ル、又論語ニハ「文質彬彬然後君子也」ト云フコトヲ申シテ居リマスガ、教育ノ理想ハ實ニ茲ニアラネバナリマセヌ、然ルニ近時國民教育ハ徒ニ智育ニ偏シ、武教ヲ忘レ、其弊容易ニ忍ビ得ザルモノガアリマス（拍手）文武ハ偏廢スベカラズ、文ニ偏スレ浮華、武ニ偏スレ粗暴、文武相俟テ道眞ニ興ル、又論語傷威嚇ヲ以テ勇ナリトルガ如キ弊風ナキ

ニシモアラズト云フ如キモ、畢竟スルニ真
ニ武教ノ行ハレザル結果ノ武ノ弊ナリト申
サネバナリマセヌ（拍手）畏クモ 聖上屢
宫廷ニ於テ武道試合ヲ天覽遊バサレマシタ
ガ、歎慮深遠、國民ノ齊シク景仰シ奉ル所
デアリマス

政府ハ方今時局ノ極メテ重大ナルニ鑑ミ、
深ク肇國ノ精神ヲ顧ミ、益々忠勇義烈ノ國
民道徳ヲ發揮センガ爲ニ、諸般ノ施設ヲ通
ジテ武道ヲ振興スルノ必要アルヲ確信致シ
マシテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリ
マス、何卒滿場一致御賛成アランコトヲ切
望致シマス（拍手）

○議長（小山松壽君） 是ヨリ討論ニ入リマ
ス、通告順ニ依ツテ發言ヲ許シマス——高橋
壽太郎君

○高橋壽太郎君 簡単デゴザイマスカラ、
此席ヨリ發言ヲ御許願ヒマス

○議長（小山松壽君） 宜シウゴザイマス

○高橋壽太郎君 私ハ民政黨ヲ代表致シマ
シテ本決議案ニ賛成致シマス、終リ（拍手）

○議長（小山松壽君） 山崎常吉君

○山崎常吉君 簡単デゴザイマスカラ、自
席カラ發言ヲ御許願ヒマス

○議長（小山松壽君） 宜シウゴザイマス

○山崎常吉君 只今提案者ガ細ヲ穿ッテノ
説明ガゴザイマシタノデ、簡単ニ賛成ノ意
ヲ表サセテ戴キマス、武道ガ勤モスレバ我
國古來ノ傳統精神ヨリ離レ、單ニ體育ノ手
段ノミニ看做サレル現狀ヨリ脱却致シマシ
テ、精神ト體位ノ向上ヲ獎勵スル趣旨ニ基
キマシテ、本案ガ提案セラレタト思ヒマス、

又一ツハ武道ヲ尊重スル精神ヲ各方面ニ具體化シ、以テ武道ノ振興ニ努メントスル本決議案ノ趣旨ニ對シマシテ、第一議員俱樂部ハ茲ニ贊同ノ意ヲ表シマシテ、本案ニ賛成ヲ致シマス(拍手)。

○議長(小山松壽君) 田原春次君

○田原春次君 簡單デアリマスカラ、此席ヨリ發言ヲ御許願ヒマス。

○議長(小山松壽君) 宜シウゴザイマス。

○田原春次君 私ハ本案ニ對シマシテ、社會大衆黨ヲ代表致シマシテ、贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス、政府ハ今期議會ニ於キマシテ、國民精神總動員ノ費用ヲ百万圓近くモ取ツテ居ルヤウデアリマスガ、是ハ徒ニ官僚本位ノ宣傳動作ニ終ルノ心配ガアルノデアリマス(拍手)之ニ比ベマシタナラバ、全國各地ニ町道場ヲ開キ、各相當ノ數ノ子弟ヲ收容シテ、武道教育ノ維持發達ニ資シテ居ル人材ガ、全國各地方ニアルノデアリマス、是等民間ノ武道家ヲ通ジ、又其他適切ナル方法ヲ以チマシテ、國民精神總動員運動ノ實ヲ擧ゲナケレバナラヌト考ヘルノデゴザイマス、然ルニソレ等ノ施設ニ對スル所ノ費用ト云フモノハ、全然計上シテ居ラナイノデアリマスガ、幸ニシテ同僚議員藤生君ノ御提案ニ依リマシテ、此武道振興ノ決議案が本議會ニ提出セラレタコトハ、洵ニ喜バシイ次第デアリマス、希クハ政府へ外來運動競技ノ如キ、單ナル肉體上ノ體育獎勵運動ニミ費用ヲ與ヘルコトナク、此日本精神ヲ昂揚スル所ノ、我國古來ノ武道ヲイマ一層振興サレル爲ニ、新ニ政府ニ

於キマシテ一局乃至一部ヲ設ケマシテ、國策トシテ武道ノ振興ニ當ラレンコトヲ希望致シマシテ、本案ニ賛成ノ意ヲ表スル次第ニアリマス(拍手)。

○議長(小山松壽君) 是ニテ討論ハ終局致シマシタ、此際政府ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス、之ヲ許シマス——厚生政務次官工藤鐵男君

○工藤鐵男君 政府ハ別ニ發言ヲ求メマセスガ、御希望ガアレバ申上げマス。

○議長(小山松壽君) 御申出ガアレバ許シマス——發言ガアリマセヌカラ、直チニ採決ニ入リマス——採決致シマス、本案ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス。

〔總員起立〕

○議長(小山松壽君) 起立總員(拍手)仍テ本案ハ全會一致可決致シマシタ——日程第九、決議案ヲ議題下致シマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者松田竹千代君

政府ハ燃料國策解決ノ爲昭和十三年度ヨリ向フ五箇年間ニ於テ割期的ニ國費ノ増額ヲ爲シ内地油田ノ試掘ヲ即時斷行スヘシ

第九 決議案(石油資源開發ニ關スル件)(菊池良一君外二十二名提出)

決議案

右決議ス

〔松田竹千代君登壇〕

○松田竹千代君 私ハ各派多數諸君ノ御贊成ノ下ニ提出セラレ、今茲ニ上程サレマシ

○議長(小山松壽君) 田原春次君

○田原春次君 簡單デアリマスカラ、此席ヨリ發言ヲ御許願ヒマス。

○議長(小山松壽君) 宜シウゴザイマス。

○田原春次君 私ハ本案ニ對シマシテ、社會大衆黨ヲ代表致シマシテ、贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス、政府ハ今期議會ニ於キマシテ、國民精神總動員ノ費用ヲ百万圓近くモ取ツテ居ルヤウデアリマスガ、是ハ徒ニ官僚本位ノ宣傳動作ニ終ルノ心配ガアルノデアリマス(拍手)之ニ比ベマシタナラバ、全國各地ニ町道場ヲ開キ、各相當ノ數ノ子弟ヲ收容シテ、武道教育ノ維持發達ニ資シテ居ル人材ガ、全國各地方ニアルノデアリマス、是等民間ノ武道家ヲ通ジ、又其他適切ナル方法ヲ以チマシテ、國民精神總動員運動ノ實ヲ擧ゲナケレバナラヌト考ヘルノデゴザイマス、然ルニソレ等ノ施設ニ對スル所ノ費用ト云フモノハ、全然計上シテ居ラナイノデアリマスガ、幸ニシテ同僚議員藤生君ノ御提案ニ依リマシテ、此武道振興ノ決議案が本議會ニ提出セラレタコトハ、洵ニ喜バシイ次第デアリマス、希クハ政府へ外來運動競技ノ如キ、單ナル肉體上ノ體育獎勵運動ニミ費用ヲ與ヘルコトナク、此日本精神ヲ昂揚スル所ノ、我國古來ノ武道ヲイマ一層振興サレル爲ニ、新ニ政府ニ

ヲ致シマス、石油ハ國防上、產業上、將又交通運輸上必須缺クベカラザル所ノ資料デ出テ來ナイノデアリマス、政府ハ十三年度ニ於テ國內石油資源開發費百七十萬圓ヲ計上致シテ居リマス、此資金デハ一本十万圓ノ井戸ヲ十七本試掘スルダケデアリマス、然ルニ過去ノ實例ニ見ルト、政府ノ補助金二百二十萬圓、民間ノ資金八百八十万圓、計一千萬圓デ六十本ヲ試掘致シタノデアリマシテ、ソレニ依ツテ彼ノ院内、雄物川ノ油田ノ二本ノ井戸カラ產油ヲ見ルニ至ッタノデゴザイマス、三十本ニ一本ノ割合デアリマス、ソレ故ニ政府ノ計畫デハ甚シク物足ラナイコトハ極メテ明瞭テゴザイマス、リマス、ソレノ二本ノ井戸カラ產油ヲ見ルニ至ッタノデゴザイマス、三十本ニ一本ノ割合デアリマス、ソレ故ニ政府ノ計畫デハ甚シク物足ラナイコトハ極メテ明瞭テゴザイマス、ソコデ試掘費三億圓ヲ五箇年間ニ支出スルト致シマシタナラバ、最小限度百六十五万圓ノ產油ヲ得ラレルト云フ譯デゴザイマシテ、此計算ハ固ヨリ専門家ノ周到ナル調査足ラナイコトハ極メテ明瞭テゴザイマス、ソコデ試掘費三億圓ヲ五箇年間ニ支出スルト致シマシタナラバ、最小限度百六十五万圓ノ產油ヲ得ラレルト云フ譯デゴザイマシテ、此計算ハ固ヨリ専門家ノ周到ナル調査足ラナイコトハ極メテ明瞭テゴザイマス、此計算ハ一見過大ノモノデハゴザイマセヌ、否寧ロ最小小限度ノモノトシテ見ル方ガ、我國ノ現下ノ石油需給ノ實際ニ照シテ見テ、ヨリ正シテ過大ノモノデハゴザイマセヌ、若シノ有シテ居ルノデアリマシテ、而モ其開發ノ有シテ居ルノデアリマシテ、而モ其開發サレタモノハ僅ニ一割ニ過ギナシ、九割ハ天然ノ儘棄サレ、死藏サレテ居ルト云フヤウナ狀態デゴザイマス、海外ニ於ケル所ノ有望ナル油田ヲ獲得スルコトハ、最早今日ハ望ミガ殆ドナシ、人造石油デハ容易ニ開發委員會ニ於キマシテ、商工大臣ハ、政府ハ石油資源ノ開發上從來ノ方針ヲ改メテ、試掘補助率ヲ從來半分デアツタモノヲ之ヲ

三分ノニ増加シ、場合ニ依テハ全額ヲ政府ハ負擔シ、現在ノ民營ニテ尙ホ國營ト同様ノ成果ヲ得ルヤウニ考ヘテ居ルト答ヘタ、國內石油資源ノ開發ニ對シテハ精々努力スル旨ヲ述べタノデゴザイマスガ、其實際ニ現レテ來タモノヲ見ルト、僅ニ百五十万圓ニ過ギナイノデアリマシテ、全然吾々ノ期待ヲ裏切ルモノデアリマスルコトハ、遺憾ニ堪ナインデゴザイマス、今ヤ内外ノ情勢ニ鑑ミ、政府ハ宜シク大局的見地カラ、徹底セル石油政策ヲ確立シ、即時斷行セラレンコトヲ切望スル次第アリマシテ、茲ニ左ノ決議案ヲ提出スル次第アリマス

決議案

政府ハ燃料國策解決ノ爲昭和十三年度ヨリ向フ五箇年間ニ於テ劃期的ニ國費ノ増

額ヲ爲シ内地油田ノ試掘ヲ即時斷行スヘ何卒滿場一致ノ御賛成ヲ得シコトヲ切ニ御願ヲ致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 是ヨリ討論ニ入りマス、通告順ニ依テ發言ヲ許シマス——中井一夫君

○中井一夫君 簡單デアリマスカラ、此席カラ申述ベルコトヲ御許ヲ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 宜シウゴザイマス

○中井一夫君 石油ノ一滴ガ血潮ノ一滴ニ等シイト云フ言葉ハ、現ニ今我等八日支事變ニ依ツテ之ヲ痛感シテ居ルコトデアリマス、然ルニ此石油ノ重要性ニ對シマシテ、嘗テ適正ナル認識ヲ缺イテ、且ツ是ガ資源ノ開發、獲得ニ付テ最モ熱意ノナカリシ者

ハ、政府當局デアツタノデアリマス、唯軍事上已ムヲ得ナイ必要ニ刺戟セラレマシテ、昭和九年第六十五議會ニ至ツテ、初メテ漸ク石油業法案ナルモノヲ議會ニ提案フサレマシテ、漸ク石油國策ノ一端ヲ現出セシメラレタノデアリマス、而シテ最近急遽トシテ、或ハ石炭ノ液化、或ハ石油代用事業等ニ付テ、諸種ノ施設ヲ始メラレタノデアリマスケレドモ、國內資源ノ開發ト云フコトニ付キマシテハ、其方策モ變ラズ常ニ消極不徹底デアリマシタコトハ、吾々ノ沟ニ遺憾トスル所デゴザイマス、只今松田君御説明ノ通リ、私ハ我國國內ノ石油資源ヲ開發致シマスト云フコトハ、刻下ノ急務デアルト共ニ、必ズヤ此開發ハ有望デアルト云フコトヲ信ジテ居ル者デゴザイマス、仍テ政府ニ於カレマシテハ、本議會ニ提出セラレマシタ石油資源開發法案ノ成立ヲ以テ満足セラレルコトナクシテ、更ニ進ンデ此重大ナル我國石油問題解決ノ爲ニ、徹底シタル資源開發ノ助成ノ方策ヲ速ニ立テラレンコトヲ切望ニ堪ヘナインデアリマス、簡單デハゴザイマスケレドモ、政友會ヲ代表シテ贊成ノ意ヲ表シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 川俣清音君
○川俣清音君 簡單デアリマスカラ、此席カラ發言ヲ御許シ願ヒマス
○議長(小山松壽君) 宜シウゴザイマス
○川俣清音君 只今上程セラレマシタ石油資源開發ニ關スル決議案ニ對シテ、私ハ贊成ノ意ヲ表シタクト思ヒマス、時局ニ鑑ミノ意ヲ表シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 野中徹也君
(政府委員木暮武太夫君登壇)
○政府委員(木暮武太夫君) 只今上程ニ相成リマシタ決議案ノ御趣旨ニ對シマシテハ、政府ニ於キマシテモ全ク同感デゴザイマス、内地油田ノ開發ニ付キマシテハ、曩ニ本院ノ御同意ヲ得マシタ石油資源開發法案ノ十分ナル運用ニ依リマシテ、且又助成金ニ付キマシテハ十二分ニ考慮ヲ加ヘマシテ、御趣旨ニ副フヤウニ努メタイト考ヘテ居リマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 野中徹也君
○野中徹也君 簡單デアリマスカラ、自席カラ發言スルコトヲ御許シ願ヒマス
○議長(小山松壽君) 宜シウゴザイマス
○議長(小山松壽君) 貧弱デナインデアリマシテ、北ハ樺太カラ南ハ臺灣ニ至リマス間ニ、無慮五十億万坪ノ含有礦區ヲ有シテ居ルノデアリマシテ、

アルコトハ、今更言フ必要ノナイコトデアリマス、而シテ我國石油天然資源ハ決シテ居リマス、内地油田ノ開發ニ付キマシテハ、曩ニ本院ノ御同意ヲ得マシタ石油資源開發法案ノ十分ナル運用ニ依リマシテ、且又助成金ニ付キマシテハ十二分ニ考慮ヲ加ヘマシテ、御趣旨ニ副フヤウニ努メタイト考ヘテ居リマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 採決致シマス、本案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(總員起立)

○議長(小山松壽君) 起立總員

(拍手起立)

○議長(小山松壽君) 仍テ本案ハ全會一致可決致シマシタ、日程第一、昭和十三年法

律第六號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——太田大藏政務次官

第一 昭和十三年法律第六號中改正法律案(昭和十三年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル件)(政府提出)

昭和十三年法律第六號中改正法律案

昭和十三年法律第六號中左ノ通改正ス

第一條中「五億五千七百八十萬圓」ヲ「七億九千七百四十萬圓」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員太田正孝君登壇)

○政府委員(太田正孝君) 只今議題トナリ

マシタ、昭和十三年法律第六號中改正法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、昭和十三年度

一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲必要ナル

公債ノ發行ニ付キマシテハ、今期議會ニ於

テ既ニ二回ニ瓦リ之ニ關スル法律案ヲ提出致シマシテ、何レモ御協賛ヲ經テアルノデ

アリマスルガ、先日提出ノ第二號追加豫算案、及ビ今回提出ノ第三號追加豫算案ニ計上致シテアリマスル經費ノ所要財源總額二億六千二十餘万圓ノ中、二億三千九百六十餘万圓ハ之ヲ歲入補填公債ニ依ルノ必要ガアリマスルノデ、既ニ御協賛ヲ經マシテ本

月十六日公布セラレマシタル昭和十三年法律第六號ニ規定スル公債發行限度ノ法定額ヲ七億九千七百四十萬圓ニ増加スル爲メ、

本法律案ヲ提出致シマシタ次第アリマス、

何卒御審議ノ上速ニ協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諸リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、農業保險法案ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求

メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、農業保

險法案第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求

メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、農業保

險法案第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長村上國吉君

第一讀會ノ續(委員長報告)

農業保險法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

農業保險法案(政府提出)

報告ヲ求メマス

員長村上國吉君

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十三年三月二十二日

委員長 村上 國吉

(村上國吉君登壇)

衆議院議長小山松壽殿

○村上國吉君 只今上程サレマシタル農業

保險法案ニ付キマシテ、委員會ノ審議ノ經過茲ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、農業保險

制度ノ立法ハ、我國農政史上眞ニ一新紀元

ヲ劃スル大事業アリマシテ、農村多年ノ

要望ヲ滿ス所以デアリ、年々少カラザル災

害ノ爲ニ禍サレテ居ル農業者ノ收入ヲ確保

シ、其生活安定ニ資スルコト頗ル大ナルベ

キ重要ナル法案アリマスルカラ、委員會

ニ於キマシテハ去ル九日以來最モ慎重ニ審

議ヲ重ネ、委員諸君亦極メテ熱心精勤、反

復其質疑ヲ盡サレマシテ、本日茲ニ其結果

ヲ御報告申上げ得マスコトハ、私ノ欣快

トスル所デアリマス私ハ先づ此法案ノ概要

ヲ一通り申上げタイト存ジマス、蓋シ此法

案ハ我國ニ於テ初メテノ立法デアルカラ、

其内容ノ要旨ヲ明ニシテ置ク必要ガアルト

思フカラデアリマス、即チ此法案ニ定ムル

所ノ農業保險ハ、農作物ニ關スル災害保險

ヲ本旨トスルノデアリマシテ、郡ノ區域ニ

依ル農業保險組合ニ、其元受保險事業ヲ行

ハシメル、サウシテ其組合ノ組織員ハ個々

ノ農家デハナク、其區域内ノ市農會及ビ町

村農會、又地方ノ狀況ニ依リマシテハ、共

濟事業ヲ行フ所ノ養蠶實行組合ヲモ其組織

員トスル、團體加入組織ノ仕組デアリマス

次ニ保險組合ノ其組合員タル市町村農會

又ハ養蠶實行組合ト契約スル保險金額ハ、耕作者ニアリテハ其生産ニ要スル現金支出

ノ反當額ヲ、又地主ニ付テハ其土地負擔額

ヲ標準トセル定額アリマス、斯様ニ保險

理由ハ、保険料ニ關スル農家ノ負擔能力ヲ考慮セント、及ビ保険事業經營上ノ便宜ニ基クモノデアルト說明サレテ居リマス、又支拂保険金ハ三割以上ノ減收ノアツタ場合ニ、其減收ノ程度ニ從ヒ、一定ノ金額ヲ支拂フノデアリマシテ、是等ハ命令ニ依ツテ定メラレルコトニナツテ居リマス、更ニ保険料ハ各地ニ於ケル農業氣象、用水關係、地勢等ヲ考慮シ、過去ノ災害統計ヲ基礎トシテ町村別ニ、又事情ニ依ツテハ部落別ニモ一定ノ算式ニ依ツテ之ヲ定メルコトナルノデアルガ、初メノ内ハ相當面倒ナコトデアルダラウト云フ感ジヲ持チマシタ

次ニ保険組合聯合會ノ行フ再保險ハ所謂歩合再保險デ、即チ其保険金額ハ元受保險金額ノ七割ト云フコトニ致シテ居リマス、又此聯合會ニ對シテ行フ政府ノ再々保険ハ、各道府縣ニ於ケル異常災害ノ分散ヲ目的トスル超過再保險ト申スベキモノデ、各道府縣ノ災害ガ通常ト見ルベキ程度ヲ超過シタル場合ニ、其聯合會ニ對シテ再保險金ヲ支拂フノデアリマス

尙ホ特ニ一言スベキコトハ、此法案ニ於テハ水稻小作料ノ取得ニ關スル保險ヲ認メテ居リマスガ、是ハ災害ノアツタ場合ニ、現實ニ行ハル、所ノ小作料ノ減免問題トハ相關關係ヲ持タセナイ趣旨ノモノデ、即チ一定ノ災害ガアツタ場合ニ、地主ハ小作料取得上ノ損失アルモノト看做シテ、直チニ之ニ保険金ノ支拂ヲ爲シ、此支拂保険金ニ相當スル小作料ノ部分ハ、之ヲ小作人ニ請求スルコトガ出來ナイモノト致シテ居ルノデア

リマス、以上ガ此法案ノ概要デアリマス。ソコデ私ハ此委員會デ審議セラレタル數多クノ質疑應答ノ中、最モ重要ナリト認メラレタルモノ數點ニ付テ、次ニ之ヲ御紹介致シテ置キマス、即チ其第一點ハ、本法ニ於テ其保険事故ノ中ニ何故ニ冷害及ビ雪害ヲ取入レナカツカト云フ點デアッテ、此問題ハ全質疑ノ殆ド大半ヲ占メテ居リマス、即チ北海道、東北及ビ北陸地方ハ、冷害及ビ雪害ヲ被ルコト甚シク、殊ニ冷害ノ爲ニハ農家ハ時ニ或ハ飢餓ニ瀕セントスルコトサヘアリ、地方ノ農民ハ絶エズ其生活ノ不安ニ脅カサレテ居ル、故ニ苟モ農業保險ノ立法ヲ考フル時ニ、何人ト雖モ此冷害及ビ雪害ハ第一ニ其保険事故ノ中ニ取入レラルベキデアルニ拘ラズ、之ヲ除外セル如キハ失當ノ甚シキモノデアル、是等ノ地方民ガ多年農業保險制度ノ制定ヲ渴望シ來レル所以ハ、其實施ニ依ツテ斯ノ如キ深刻ナル被害ヨリ救ハレ得ルモノデアルト信ジタガ故デアル、然ルニ今之ヲ除外セル本法案ノ如キハ、殆ド農業保險ノ意義ヲ爲サナイ、是等ノ地方民多年ノ渴望ヲ全然裏切ルモノナリトシテ、其論難追究極メテ急ナルモノデアッタノデアリマス、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、居ルノデ、致方ガナインダトノ答辯デアリマシタガ、保險金額ニ對スル支拂保險金額ノ割合ガ甚シク不同デアルトノ非難ニ對シテ、計算上許サレル限リ之ヲ改メン

トスル意思ヲ示シタノデアリマス、又國庫支出ノ點ニ關シマシテハ、政府ハ毎年ノ保險料ノ一部ヲ永久ニ負擔シ、且ツ保險組合ニ對シテ其共濟設施ヲ助成スル等、相當額ニ對シテ其共濟設施ヲ助成スル等、相當額ノ負擔ヲ要スルノミナラズ、異常灾害ニ際シテハ一舉ニ極メテ巨額ノ支出ヲ約束スル要トスルニ拘ラズ、現在ノ所未ダ十分ナル額ヲ増額スペキデハナイカト云フヤウナ質

カ、又政府ニ於テ何程ノ支出ヲ要スルカノ見透シモ付カナイ現状デアルカラ、一應ハ之ヲ保険ヨリ除外シテ、農業保險組合ノ共濟事業ニ依ラシムルコトト爲シ、政府ヨリモ援助シテ共濟ノ實ヲ舉ゲシムルコトニ努力スルト共ニ、一方可及的ニ其調査攻究ヲ遂ゲ、出來得ル限リ速ニ之ヲ保険事故中ニ取入レルヤウニスル考デアルトノコトデアリマシタガ、委員ハ此答辯ニ満足ガ出来ズ、益急迫ガアリマシタノデ、最後ニ此點ニ關シ農林大臣ヨリ言明ヲ得タノデアリマス、此言明ハ極メテ重大デアリマスルカラ、農林大臣ハ當議場ニ於テ重ネテ其言明ヲ爲サレンコトヲ私ハ茲ニ要求シテ、私ノ報告ヨリ省クコトニ致シマス

重要ナル質疑ノ第二點ハ、此法案ニ依ル保險計畫ノ内容ガ餘リニ貧困デアルト云フ問題デアリマシテ、保險金額ノ如キハ實收穫價額ノ三分ノ一又ハ四分ノ一、若クハ五分ノ一位ニ過ギナイ、又其支拂保險金額モ普通ニ見ル所ノ災害ノ場合ニハ極メテ少額デ、而モ減收三割マデノ被害ニハ其支拂ヲシナイ、三割乃至五割ノ損害ノ場合ニ、僅ニ保險金額ノ一割ニ當ル程度ノ支拂ニ止メ、九割以上減收ノ被害アリタル時初メキハ、子供騙シニ類スルモノデアルトノ非難ガアリ、又我國農家ノ實情ヨリスレバ相互主義ノ保險制度トスルコトニ無理ガアルノデアルカラ、政府ニ於テ思切ツテ助成額ヲ増額スペキデハナイカト云フヤウナ質

疑ガ繰返サレタノデアリマス、右ノ質疑ニ對スル政府ノ答辯ハ、本制度ハ我國ニ於テハ初メテノ施設デ、官民共ニ未ダ經驗ヲ持タナイ上ニ、多數ノ零細農ヲモ包含セシメントスル社會保險の制度デアル爲ニ、保險料ノ負擔ガ重クナツテハナラズ、從來ノ施設ノ實情ヤ農家負擔力ノ程度ヲ考慮シテ、益急迫ガアリマシタノデ、最後ニ此點ニ關シ農林大臣ヨリ言明ヲ得タノデアリマス、此言明ハ極メテ重大デアリマスルカラ、農林大臣ハ當議場ニ於テ重ネテ其言明ヲ爲サレンコトヲ私ハ茲ニ要求シテ、私ノ報告ヨリ省クコトニ致シマス

重要ナル質疑ノ第二點ハ、此法案ニ依ル保險計畫ノ内容ガ餘リニ貧困デアルト云フ問題デアリマシテ、保險金額ノ如キハ實收穫價額ノ三分ノ一又ハ四分ノ一、若クハ五分ノ一位ニ過ギナイ、又其支拂保險金額モ普通ニ見ル所ノ災害ノ場合ニハ極メテ少額デ、而モ減收三割マデノ被害ニハ其支拂ヲシナイ、三割乃至五割ノ損害ノ場合ニ、僅ニ保險金額ノ一割ニ當ル程度ノ支拂ニ止メ、九割以上減收ノ被害アリタル時初メキハ、子供騙シニ類スルモノデアルトノ非難ガアリ、又我國農家ノ實情ヨリスレバ相互主義ノ保險制度トスルコトニ無理ガアルノデアルカラ、政府ニ於テ思切ツテ助成額ヲ増額スペキデハナイカト云フヤウナ質

力ノ維持増進ヲ圖ルハ勿論、農村ノ更生ヲ圖ルト申シテ居リマス、此聲明ニ依リマシテ、全國五百六十萬戸ノ農村ハ、如何ニ此法案ニ依ツテ吾々ノ救ハレルコトヲ待望シタモノデアリマセウカ、其案ヲ検討致シテ見マスルト、實ニ農家ノ待望ヲ裏切ツテ、貧弱極マルモノデアッタノデアリマス、先づ保険ノ範圍ノ内容ニ付テ考へテ見マスルト、今日ノ農家經濟ヲ救フナラバ、單ニ收穫保険ダケデナシニ、農業經營主體其モノニ保險ヲスル必要ガアルコトヲ痛感スル者デアリマス、言フ迄モナク農村ノ生產ノ源泉ハ土地デアル、其土地ノ灾害ニ付テノ事故ヲ、全然保險目的カラ除外シテ居タ其一事ヲ見マシテモ、私ハ此法案ガ今日ノ農村經濟ヲ救濟スルノ源泉デアルトハ言ヒ得ナイノデアリマス、ノミナラズ然ラバ收穫灾害保険ト致シマセウカ、此收穫ノ灾害保險ニ付

案セラレマシテカラノ歴史ヘ、既ニ十二箇年ヲ經過致シテ居リマス、其間昭和三年ヨリ昭和五年マデハ年々二万圓ヅ、ノ調査費用ヲ要求致シマシテ、而シテ著々ト進メテ居ル、而モ其調查期間内ニ於テ四回ノ冷害ガアリ、政府ニ之ヲ追究スレバ、甚シキニ至ツテハ昭和九年ノ冷害ノ統計スラ集ツテ居ラヌト云フニ至ツテハ、政府方農村ニ對スル誠意ヲ疑フモノデアリマス(拍手)斯様ナル情勢デアリマシテ、吾々民政黨員ハ最後マニヤ、唯一部定額保險デアル、而モ其作物ノ種類ニ限ラレテ居リナガラ、立派ニ麥ノ中ニ含マレテ居ル所ノ燕麥ヲ除外シテ居ル、又一部收穫ノ定額保險デアッテ、其灾害ノ種類ニ限ラレテ居リナガラ、立派ニ麥ノ中ニ含マレテ居ルノデアリマス、是等ノ作物ノ種類ナ

イ、此冷害對策ニアリト絶叫致シマシタ(拍手)之ニ對シテ政府ハ種々考慮セラレマシテ、先程モ農林大臣ガ此席上ニ於テ御發表ニナツタ如ク、内容ノ殊ニ重大ナルモノヲ發表セラレマシタ故ニ、吾々ハ之ニ贊成スルモノデアリマス

更ニ此保險料ノ問題ニ付テデアリマスガ、先程村上委員長カラモ御報告ガアリマシタガ、碎イテ申シマスルト、七十六錢ヲ三箇年掛ケテ二圓二十八錢、而モ三年ニ一度五分作ニ遭遇シタ時ニ於テ二十六錢ノ損ガ行クト云フ内容デアリマス、之ヲ小作人ニ見アル、如何ニ政府ガ天狗ニ肖リテモ、人ノ

力デドウシテ此冷害ヲ防止スルコトガ出来マセウカ、此冷害ニ對シテハ殆ド統計ガ足ラナイトカ、或ハ調査ガ足ラナイトカ、色々言フ左右ニ致シマシテ、此冷害ニ對スル誠意ヲ持ツテ居ラヌコトヲ遺憾トスルモノデアリマス(拍手)然ルニ政府ノ言フガ如ク、眞ニ冷害ニ對スル調査ガ行届イテ居タカドウカ、本農業保險ト云フモノガ議會ニ提案セラレマシテカラノ歴史ヘ、既ニ十二箇年ヲ經過致シテ居リマス、其間昭和三年ヨリ昭和五年マデハ年々二万圓ヅ、ノ調査費用ヲ要求致シマシテ、而シテ著々ト進メテ居ル、而モ其調查期間内ニ於テ四回ノ冷害ガアリ、政府ニ之ヲ追究スレバ、甚シキニ至ツテハ昭和九年ノ冷害ノ統計スラ集ツテ居ラヌト云フニ至ツテハ、政府方農村ニ對スル誠意ヲ疑フモノデアリマス(拍手)斯様ナル情勢デアリマス(ヒヤノ)斯ウ云フ内容ヲ持ツテ居リマスノミナラズ、本法ノ最モ缺點トスル所ハ、日本全國ノ災害ヲ平均ニ見テ七十六錢税金ヲ増スガ如キモノニハ、斷ジテ入ラナイト思フ(拍手)斯ウ云フ内容ヲ持ツテ居リマスノミナラズ、本法ノ最モ缺點トスル所致シテ居リマスガ、南方ノ方面ノ所謂小面積耕作、所謂多角形農業、所謂立體的農業ノ方面ニ於キマシテハ、面積ニ對スル保險料ナルガ故ニ、少額ナル負擔デ之ヲ済マスクトガ出來マスケレドモ、若シ之ヲ北陸、東北、北海道ノ如キ單作、所謂平面農業面積ノ擴大スル農地ヲ持ツテ居ル農業地帶ト致シマシテハ、莫大ナル金ヲ支拂ハナクテハナラヌ、茲ニ本案ノ缺陷ガアルト思フ、所謂平面農業ハ立體農業ニ對シテ其負擔ノ均衡ガ缺ケテ居ル、是ガ本法ノ最モ缺點ト稱スベキ所デアラウト思ヒマス、今日ノ農家ノ現狀ハ言フ迄モナク、農家ガ今日ノ窮境ニ至リマシタ其原因ヲ追究致シマスナ

トバ、所謂資本主義經濟ニ壓倒セラレタト申シマセウカ、所謂今日ノ農家の經濟ハ消費ハ文化ノ尖端ヲ行き、生產ハ昔變ラヌ粗笨農業デアル、而モ其上ニ今日ノ社會情勢ハ、稅ノ均衡ノ上ニ於テ二倍三倍ノ多クノ稅ヲ支拂ヒ、一朝事アル場合ニハ國家ノ干城トシテ農村青年ノ六割七分ハ徵集サレテ居ル、而モ其生產費ノ値上リニ於キマシテアルベキモノハ、言フ迄モナク東北、北海道及び北陸地方ニ於ケル所ノ冷害其モノデアル、如何ニ政府ガ天狗ニ肖リテモ、人ノ

デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 坪山徳彌君

(坪山徳彌君登壇)

○坪山徳彌君 只今議題トナツテ居リマス
ル農業保険法案ニ對シ、私ハ立憲政友會ヲ
代表シテ委員長ノ報告ニ對シ、賛成ヲ致ス
者デアリマス、勿論政府言明ノ事項ニ關シ
テハ、是ガ實現ノ速カナランコトヲ特ニ強
調スルモノデアリマス、申上グル迄モナク、
本法案ハ農地調整法ト共ニ我國農業ニ取ッ
テ、本期議會ニ於ケル二大重要法案デアル
コトハ論ヲ俟タナイ所デアリマス、而モ本
制度ガ劃期的革新政策デアリ、農業關係者
ガ多年要望シ、是ガ實現ノ一日モ速カナラ
ンコトヲ期シテ居ツタモノデアリマス、然ル
ニ本法案ノ内容ヲ檢討スルニ及シ、折角
ノ農民ノ期待ハ全ク裏切ラレタ感ヲ持タザ
ルヲ得ナイノデアリマス、本法案ノ實施ニ
依ツテ果シテ政府ノ期待シテ居ラル、如キ
效果ヲ擧げ得ルヤ否ヤ、洵ニ疑問ニ思フノ
デアリマス、併ナガラ初メテノ法案デアリ、
而モ議會ノ會期ハ非常ニ切迫フ致シテ居リ
マスル今日、徒ニ修正改廢等ヲ行ヒ、案ヲ
不成立ニ導クガ如キハ却テ農民ノ爲ニ忠實
ナラザルモノデアルト考ヘマシテ、姑ク政
府ノ言明ヲ信頼シ、茲ニ二三ノ希望ト警告
ヲ發シテ本法案ニ贊成ノ意ヲ明ニ致シタイ
ト思フノデアリマス

農村ノ疲弊困憊甚シク、經濟的ニ惠マレ
ザル状態ハ今更多言ヲ要サナイノデアリ
ス、殊ニ不慮ノ災害ニ因リテ被ル損害ハ年々
頗ル大ナルモノガアリマシテ、是方爲メ

農家經濟ノ受クル打擊モ、決シテ尠クハナ
リ、以テ農家負債ノ原因ヲ防除シ、農業經
營ヲ安定セシメ、農業生產力ノ維持増進ヲ
圖リ、農村經濟更生ノ爲ニ本法案ガ生レタ
ノデアリマスルガ、其内容ハ極メテ貧弱ズ、
是ガ實施ノ曉ニハ農民ノ失望落膽ハ蓋シ想
像ニ餘リアルト思ヒマス、徒ニ相互扶助ノ美
名ニ隠レテ國家ノ負擔ヲ輕カラシメントス
ルガ如キ態度ニ出ラレタルコトハ、本法案實
施ニ當リ其實績ヲ擧ゲル上ニ於テ、相當困
難ナル事柄デアルト考ヘネバナリマセヌ、
殊ニ農村ノ現況ハ、農家ガ直屬ノ市町村農
會又ハ養蠶實行組合ノ僅少ナル費用スラ負
擔シ得ザル實情ニ鑑ミラレマシテ、是ガ實
施ニ當ツテハ單ニ保険料ノ一部國庫負擔ノ
限度ニ止メズ、少クモ保険料ノ半額程度ハ
之ヲ國家ニ於テ補助シ、農業災害救濟ノ實
施ニ當ツテハ單ニ保険料ノ一部國庫負擔ノ
億ノ豫算ヲ議決シタル今日ニ於テ殊ニ然リ
巡スル必要ガアルノデアラウカ、今ヤ八十
億ノ豫算ヲ議決シタル今日ニ於テ殊ニ然リ
デアリマス、保険技術上ノ困難ナル理由ヲ
以テ、是ガ施行ヲ遷延セントスルガ如キハ、
其ノ眞意ヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス
此問題ニ付テハ來年度速ニ是ガ調査研究ヲ
重ね善處スル旨ノ言明ガアリマシタノデ、
速ニ是ガ調査研究ヲ完了セラレ、地方農民
ノ意ノ在ル所ヲ尊重セラレ、一日モ速ク是
ガ實現ヲ望ンデ已マナイ次第デアリマス
尙ホ農村ニ於ケル人的資源及ビ食糧資源
タル農耕地ノ災害ニ付テモ其被害ガ極メテ
甚大ナルニ鑑ミ、是ガ救濟制度ニ付テモ速
に實現セラレシコトヲ希望スル次第デアリ
マス、自然的灾害ヲ被リ易キ果樹、茶或ハ
大麻、干瓢、西瓜、砂糖黍等ノ特殊農作物
ニ對シテハ十分是ガ研究調査ヲ遂ゲ、其濟
事業ハ勿論、保險事業ニ加ヘラレルヤウ希
望スル所デアリマス

ノ事故ヲ保險事業カラ除キ、又豫防シ得ル
ノ理由ヲ以テ稻穀病ヲ其事故ヨリ除外シテ、
單ニ救濟事業ニ委ネントスルガ如キ態度ハ
ヲ被ムル地方ニ於テハ、雪害、冷害、稻熱
病ヲ除キ何ノ保險ノ效果ガアルデアラウカ、
道、北陸、北關東地方ノ如キ年々是等ノ害
ノデアリマスルガ、其内容ハ極メテ貧弱ズ、
是ガ實施ノ曉ニハ農民ノ失望落膽ハ蓋シ想
像ニ餘リアルト思ヒマス、徒ニ相互扶助ノ美
名ニ隠レテ國家ノ負擔ヲ輕カラシメントス
ルガ如キ態度ニ出ラレタルコトハ、本法案實
施ニ當リ其實績ヲ擧ゲル上ニ於テ、相當困
難ナル事柄デアルト考ヘネバナリマセヌ、
殊ニ農村ノ現況ハ、農家ガ直屬ノ市町村農
會又ハ養蠶實行組合ノ僅少ナル費用スラ負
擔シ得ザル實情ニ鑑ミラレマシテ、是ガ實
施ニ當ツテハ單ニ保険料ノ一部國庫負擔ノ
限度ニ止メズ、少クモ保険料ノ半額程度ハ
之ヲ國家ニ於テ補助シ、農業災害救濟ノ實
施ニ當ツテハ單ニ保険料ノ一部國庫負擔ノ
億ノ豫算ヲ議決シタル今日ニ於テ殊ニ然リ
巡スル必要ガアルノデアラウカ、今ヤ八十
億ノ豫算ヲ議決シタル今日ニ於テ殊ニ然リ
デアリマス、保険技術上ノ困難ナル理由ヲ
以テ、是ガ施行ヲ遷延セントスルガ如キハ、
其ノ眞意ヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス
此問題ニ付テハ來年度速ニ是ガ調査研究ヲ
重ね善處スル旨ノ言明ガアリマシタノデ、
速ニ是ガ調査研究ヲ完了セラレ、地方農民
ノ意ノ在ル所ヲ尊重セラレ、一日モ速ク是
ガ實現ヲ望ンデ已マナイ次第デアリマス
尙ホ農村ニ於ケル人的資源及ビ食糧資源
タル農耕地ノ災害ニ付テモ其被害ガ極メテ
甚大ナルニ鑑ミ、是ガ救濟制度ニ付テモ速
に實現セラレシコトヲ希望スル次第デアリ
マス、自然的灾害ヲ被リ易キ果樹、茶或ハ
大麻、干瓢、西瓜、砂糖黍等ノ特殊農作物
ニ對シテハ十分是ガ研究調査ヲ遂ゲ、其濟
事業ハ勿論、保險事業ニ加ヘラレルヤウ希
望スル所デアリマス

ノ事故ヲ保險事業カラ除キ、又豫防シ得ル
ノ理由ヲ以テ稻穀病ヲ其事故ヨリ除外シテ、
試験場ヲ特ニ此際動員ヲシテ、一層其活動ヲ
促シ、土壤ノ検査、施肥標準調査、
肥培管理ノ方法、或ハ品種ノ改良、特殊
農作物等ノ研究調査ヲ速ナラシメ、地方
ニ適當ナル品種ヲ選出シ、肥培管理ノ改
善ヲ行フト共ニ、速ニ適地適作主義ヲ獎勵
シ、以テ災害ヲ未然ニ防止セシムベキコト
ニ努ムベキダト思ヒマス、又農作物ノ自然
的灾害ヲ未然ニ防止スルコトニ關シテハ、
積極的災害豫防施設ヲ忘却シテハナラナイ
ト思ヒマス、灌漑水竝ニ勞力不足ニ對シテ
ハ、耕地整理ノ獎勵、貯水池ノ設置、旱害
水害ニ對シテハ、水源林ノ培養、砂防ノ強
化、河川ノ改修、用排水幹線ノ整備等、一日
モ之ヲ忽セニスベキモノデハナイト信ジマ
ス、病蟲害ニ對スル豫防驅除、實地指導等ニ
對シテ決シテ注意ヲ怠シテハナリマセヌ
労力不足ヨリ生ズル農產物收穫減ニ對シ
テハ、特ニ此際政府ノ注意ヲ喚起シナケレ
バナリマセヌ、今次支那事變勃發スルヤ多
數ノ農村中堅勇士ハ、其愛スル農馬ト共ニ
一身一家ヲ忘レテ君國ノ爲ニ奉公ノ誠ヲ捧
ゲツ、アルノデアリマシテ、是ガ爲ニ農村ニ
於ケル勞働力ハ甚シキ不足ヲ痛感致シテ居
リマス、加フルニ近時軍事工業發展ノ結果、
農村ニ於ケル青年子女ハ、年下共ニ是等工業
都市ニ集中セラレ、農村ニ於ケル勞働力ノ不足
ハ益、其度ヲ加ヘツ、アル現況デアリマス、勿
論是等ノ労力不足ニ對シテハ、隣保共助ノ精神

七八

ニ依ツテ、或ル程度ノ補給ハ爲シ得ルト思ヒ
五月、六月ノ作付時期、即チ水稻ノ植付、
大小麥ノ收穫時期ニ於ケル勞力不足ニ對シ
テハ決シテ樂觀ヲ許サナイモノガアルト思
ヒマス、特ニ馬ノ徵發ニ依ル勞動力不足ニ
關シテハ、特ニ是ガ補充ニ對シ適切ナル方途
ヲ講ゼラレ、苟モ作付不能ニ陷ルガ如キコ
トノ萬ナカラソコトヲ望ム者デアリマス、
是等ノ勞働力不足ヨリ生ズル收穫減ニ對ス
ル未然防止ニ付テハ特ニ周到ナル対策ヲ要
求スル次第デアリマス

由來農村問題ハ動トモスレバ社會ヨリ輕
視セラレントスルガ如キ傾向ノアリマスコ
トハ、我國農業界ノ爲メ眞ニ遺憾ニ堪ヘザ
ル所デアリマス、農業ガ他ノ職業ニ比較シ
テ其努力ニ對シ常ニ惠マレザル立場ニアリ
マスクトハ、否定シ得ザル現實デアリマシ
テ、農民ハ働ケドノ増スノハ借金バカリ
デアリマス、獨リ農民ノミガ終生斯ノ如キ
慘メナ生活ヲ致サナケレバナラスト云フ理
由ハ決シテアルベキモノデハアリマセヌ、
茲ニ政治ノ行届カザル缺陷ガアルト言ハザ
ルヲ得マセヌ(拍手)此點ニ關シ特ニ政府ノ
注意ヲ喚起シテ已マナイ次第デアリマス、
此窮乏セル農村ヲ救濟スル爲ニハ常ニ勇猛
心ニ富ミ、熱意アリ、眞ニ農業ヲ理解シテ
居ル適當ナル當事者ヲ得ルニアラザレバ、
到底望ムコトハ出來得ナイト確信致シテ居
リマス、農政官吏ノ任免異動ニ當ツテハ、一
屬吏ト雖モ之ヲ輕々ニ行フガ如キコトナク、
到底シク其地方ノ事情ヲ參酌シ、適否ヲ極メ、

適材ヲ適所ニ配置シ、十分其手腕ヲ發揮セ
農村ニ於ケル銃後ノ護ハ重且ツ大デアリマス、政府ハ宜シク念ヲ特ニ此點ニ注ガレテ
廣義國防ノ完結ノ立場カラモ、今日ノ農村
ガ一刻モ早ク經濟的ニ惠マレ得ル日ノ速ナル
コトヲ懇願シテ已マナ次第デアリマス
ス

然デアラウト思フノデアリマス(拍手)隨デ
私ハ以下三ツニ瓦リマスル所ノ希望意見ヲ
申上ガマシテ、本案ニ對スル所ノ賛成トス
ル次第アリマス、希望意見ヲ朗讀致シマ
スト、先ヅ

第一ハ、政府ハ農業保険施行ニ當リ、眞
ニ災害救濟ノ目的ヲ達スル爲必要ナル經
費ノ負擔ヲ計上シ次期議會ニ必ズ提出ス
ベシ(拍手)

第二ハ、政府ハ速ニ冷害、雪害ノ調査ヲ遂
ゲ之ガ根本対策ヲ樹立スペシ(拍手)

第三、政府ハ本法案施行ニ伴ヒ漸次農業
保険目的物タル所ノ農作物ノ種類ヲ擴張
スペシ

以上デアリマス、此希望意見ニ關シマシテ、
簡單ニ私ノ所見ヲ申上ガタイト思ヒマス
何ガ故ニ第一ノ希望意見ヲ附スルカト申
シマスルナラバ、本案ハ委員長ノ報告サレ
マシタ通り、極メテ此案其モノガ施行サル、
場合ニ於キマシテハ、農民ノ失望ト云フ
モノハ甚シイノデアリマス、其失望ノ甚シ
イ理由ト云フ問題ハ、實益ガ乏シイト云フ
コトデアリマス、何ガ故ニ實益ガ乏シイカ
ト申シマスルト、政府ガ吾々ニ提出致シマ
シタ其保険料ト保険金額ノ内容ヲ見マスル
ナラバ、自作農ニ於テハ七十六錢、小作農
ニ於キマシテハ三十八錢、地主ニ於テハ四
十三錢ノ保険料ヲ掛ケマシタ場合ニ於テ、
而モ其收穫ガ五割減ト云フ農民ニ取りマシ
テ致命的ナ打撃ヲ受ケマシタ場合ニ、保険
金ヲ幾フ吳レルカト申シマスルト、自作農
ニ於テハ七十六錢掛ケマシテ僅ニ二圓デア

シテ僅ニ一圓デアリマス、地主ニ於テハ四十
三錢ヲ掛ケマシテ僅ニ一圓デアリマス、諸君
苟モ農村ノ實情ニ通曉致シマス者ガ、五割
減ト云フ收穫ニ遭ヒマス時ニ於キマシテハ、
是レ致命的ナル打撃デアリマスルコトハ、
私ガ喋々申ス迄モナインデアリマス(拍手)
即チ一反歩ニ於テ二石穫レル所ノ地面ニ於
テ、一石減少致スト致シマシタナラバ、ド
ウデアリマセウカ、ソレヲ金額ニ見積ルト、
米價ヲ假ニ一石三十圓トシテモ、其損害ハ
三十圓デアル、三十圓ノ損害ヲ致シマシ
タ時ニ於テ、自作農ガ七十六錢ヲ掛ケテ二
圓ヲ貰ッタ、其差額ハ幾ラデアルカト申シ
マスルナラバ、僅ニ一圓二十四錢デアル、
三十圓ノ損害ヲ致シマシテ、一圓二十四錢
ヲ貰ッテ、是デ救濟ニナリマセウカ、小農作
ニ於テハドウデアリマセウカ、半減致シマ
シテ、小作料ヲ半分取ラレテ、殘リノ五分
デアリマスル時ニ於テハ生活ノ脅威デアル、
其根本的ナル生活脅威ニ襲ハレマスル場合
ニ於テ、小作農ハ一圓貰ッテ、保険金ヲ差引
クト僅ニ六十二錢、之ヲ興ヘテ果シテ是レ
農村ノ救濟ト言ヒマスナラバ、農林當局ノ
認識不足ト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、
(拍手)此致命的ナル缺陷ガ、然ラバ何處カ
ラ發生スルカ、私ハ此致命的ナル缺陷ト云
フモノハ、極メテ是ハ簡単ナル原理ニ基ク
ト思フノデアリマス、即チ政府ガ此農村ヲ
救濟スルト云フ使命ニ立チマシタ農業保險
ニ對シマシテ、其補助金ト云フモノハ、今
年計上致シマシタモノハ僅ニ二十万圓デア

ル、諸君二十万圓ト云フモノガ、全國ノ耕地反別六百万町歩ニ割ルトドウカ、一反歩ニ對シマスル所ノ平均ト云フモノハ僅カ三厘三毛デアリマス、農民ヲ救濟スルト言ヒマス所ノ農業豫算ト云フモノガ、一反歩ニ對シテ三厘三毛デ、能ク農村救濟ヲシ得ルト云フコト、是亦私ヘ農村當局ノ如何ニモ認識不足ヂヤナイカト思フ(拍手)來年度カラハ約百万圓デヤルト言ヒマス、百万圓ト致シマシテモ、之ヲ六百万町歩ニ割ルト、僅ニ一錢五厘デハナイカ、政府ガ目的ト致シテ居リマスル所ノ二百三十万町歩ト云フモノヲ救濟スルト云フ點カラ言ヒマスト、百万圓ハ一反歩ニ付テ僅カ四錢五厘デアリマス、諸君、今日農村ヲ救濟スルト云フ聲、徒ニ高クシテ、其提案サレマシタ法案ノ内容ヲ吾々ガ仔細ニ點檢シテ見マス時ニ、此驚クベキ貧弱ナル數字ヲ見マス時ニ、吾々ハ無條件デ賛成スルコトハ出來ナイ(拍手)私ガ委員會ニ於テ大藏大臣及ビ農林大臣カラ特ニ言明ヲ得タ所ニ依リマスト、大藏大臣ハ此點ニ付テハ直チニ農業保険ニ關スル所ノ費用ヲ出スト云フコトハ言ヘナイケレドモ、農村ノ實情ニ鑑ミマシテ、當然アナタ方ノ意見ニ對シテ考慮ヲシナケレバナラナイカラ、其言外ノ意味ヲ諒トセヨト云フ御答辯ガアリマシタノデ、私ハ本日ハ其大藏大臣ノ答辯ヲ善意ニ解釋スルコトニ依ツテ賛成セントスル所以デアリマスルカラ、此點ヲ明白ニ致シテ置キタイト思ヒマス

基準ト致シマシテ、冷害、雪害ト云フモノニ對シテハ未ダ研究調査ガ出來ナイト言ハレマス、併ナガラ私ハ政府ガ吾々ニ提供致シマシタ此被害統計ト云フモノヲ手ニ致シマシテ、政府ガ唯單ニ調査不十分デアルト云フ點ハ私ニハ承服出來ナカッタノデアリマス、政府ノ見ル所ニ依リマスト、昭和九年ニ於キマシテ百三十万町歩ト云フ被害ガ現ハレタコトニ對シテ、農林當局ハ膽ヲ潰シテ居ル、併ナガラ諸君、政府ガ十七箇年間ノ統計ヲ調べマシテ、百万町歩ヲ超エテ居リマスト云フノハ、僅ニ昭和九年一年デハナイカ、私ハ此統計ヲ自分ノ數字ニ依シテ計算シテ見マスナラバ、十万町歩乃至二十二万町歩ノ被害ト云フモノハ、此十七箇年間ニ於テ約十二箇年間デアル、三十万町歩以上ノ年ト云フモノハ僅ニ五箇年間デアル、之ヲ平均致シマスト一年ニ於テ僅カ三十五万町歩ノ被害デアリマスカラ、當局ガ一反歩ニ對シテ十圓ノ補助金ヲ出スト云フコトニナリマシテモ、一年ニ三千五百万圓サヘ計上致シマスナラバ、農業保險ト云フモノハ立派ニ成立ツデハナイカ(拍手)農村ハ國ノ寶デアル、今ヤ銃後ノ救濟ヲシナケレバナラヌト云フコトハ、喧々囂々トシテ居リ、政府當局モ之ヲ豫算總會其他ノ委員會ニ於テ是認シテ居ルトスルナラバ、農民ノ爲ニ、而モ全國ノ農村問題ト云フモノノ解決ノ極メテ重大部面ノ爲ニ、僅カ三千五百万圓位當局ハ考ヘテ宜カラウト私ハ斷言スル者デ

アリマス、私ガ此第二ノ冷害及ビ雪害ニ對シテ根本的調査ヲ爲スベシト言フ所以ハ此處ニ存スルノデアリマス、冷害、雪害ト雖モ、政府ガ三千五百万圓ノ金ヲ犠牲ニスルト云フ觀念ガアリマスナラバ、アノ北海道、東北方面ニ於キマスル所ノ熱烈ナル所ノ委員諸君ノ希望ニ對シテ、農林大臣ハ言下ニ答ヘラレタデアラウト思フ、切ニ私ハ此私ガ希望條件トシテ附シテ居リマス所ノ第二ノ冷害、雪害ニ對スル所ノ根本的調査ヲ爲シテ、農民ノ希望ニ副フヤウニト云フコトヲ希望スル次第デアリマス

○議長(小山松壽君) 宜シウゴザイマス
○菊地義之輔君 私ハ社會大衆黨ヲ代表致
シマシテ本案ニ贊意ヲ表スル者デアリマス、
既ニ各派ノ代表ノ諸君ニ依リマシテ詳細ニ
論議シ盡サレマシタカラ、私ハ極メテ簡單
ニ贊成ノ理由ヲ述ベタイト思ヒマス
政府ハ曩ニ農業保険制度ハ相互扶助ノ精
神ニ立脚シ、農業負債原因ヲ防除シ、農村
社會不安ノ原因ヲ除去シ、農家經濟ヲ安定
セシメ、農業經營ノ合理化ヲ促進セシムル
ト共ニ、農村經濟更生ヲ遂行スル上ニ於テ、
極メテ緊要ナル施設ナリト、本法案ノ其大
目的ヲ發表シタノデアリマス、我國窮乏ニ
喘グ農民大衆ハ大旱ニ雲霓ヲ望ムガ如キ思
ヒヲ以チマシテ本案ヲ期待シタノデアリマ
ス、然ルニ愈々本案ニ於キマシテ其全貌ヲ現
ハスヤ、其大目的ト相距ルコト極メテ遠ク、
到底今日ノ農民ヲ救濟スルコト能ハザルコ
トヲ痛致シマシテ、私共ハ農民大衆ト共
ニ泌々タト幻滅ノ悲哀ヲ感ジタノデアリマス、
併ナガラ政府ハ之ヲ以て能事終レリト爲サ
ズ、本法案ハ目的達成ノ第一歩デアル、將
來完璧ヲ期セントスルモノデアルトノ言明
ヲ吾々ハ信ジマシテ、是カラ述ベル希望條
件ヲ附シマシテ贊意ヲ表スル者デアリマス
希望條件

シ得ルノ完全ナル收穫保險制ヲ確立シ、少クトモ農民生活ノ最低ヲ確保セシメ、戰時下農業生産力ノ擴充ニ資スルノ社會保險的性質ヲ有スル國營綜合農業保險制ヲ速ニ樹立スベシ

(拍手起ル)

○議長(小山松壽君) 是ニテ討論ハ終局致シマシタ、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決セラレントラ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、明二十三日ハ定刻ヨリ本會議ヲ開キマス、議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

農業保險法案

第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、明二十三日ハ定刻ヨリ本會議ヲ開キマス、議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後五時五十四分散會